

# HOSEI

Communication Magazine

1·2  
2023



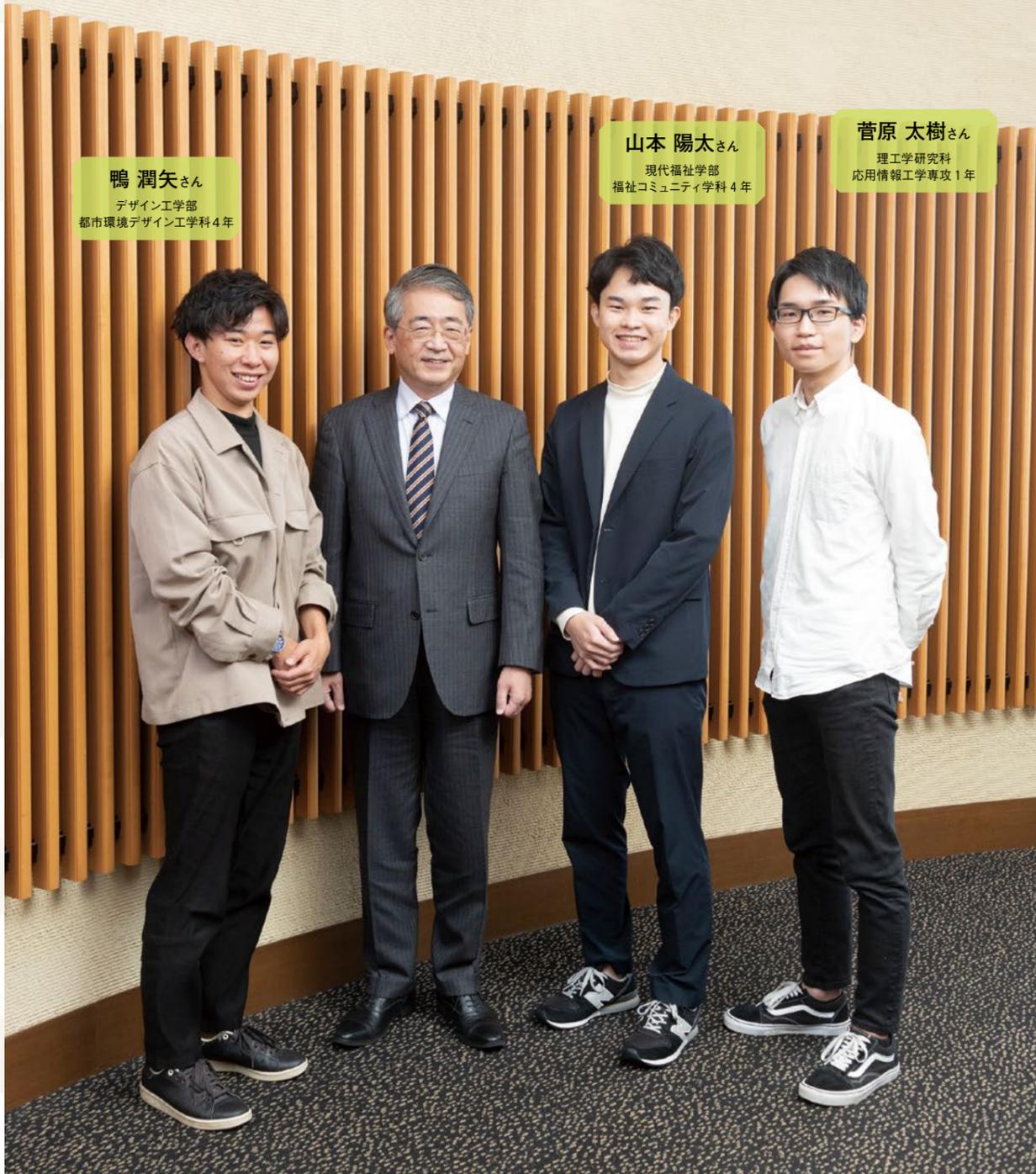
# 「誰かのため」に私たちができること

～自由を生き抜く実践知～

法政大学では、毎年、法政大学憲章を体現するような実践事例を募り、

「自由を生き抜く実践知大賞」として表彰しています。

昨年度の「2021年度自由を生き抜く実践知大賞」の応募には、コロナ禍においても、人のため、社会のためにできることを主体的に考えて行動する学生の取り組みが多くありました。本特集企画では、そうした学生の取り組みや想いを廣瀬克哉総長との座談会を通じて紹介していきます。



**鴨 潤矢さん**  
デザイン工学部  
都市環境デザイン工学科4年

**山本 陽太さん**  
現代福祉学部  
福祉コミュニティ学科4年

**菅原 太樹さん**  
理工学研究科  
応用情報工学専攻1年

## 市ヶ谷・多摩・小金井キャンパスで大学祭を開催

市ヶ谷・多摩・小金井の3キャンパスで大学祭が開催されました。  
3キャンパスともに新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じた上、対面で開催されました。  
学生団体や実行委員がユニークな企画を展開し、それぞれの会場では笑顔あふれる学生や来場者の姿が見られました。



### 市ヶ谷 11月3日(木・祝)～6日(日)

2022年度のテーマは「Canvas on Campus」。絵を描くキャンパスと大学構内を表すキャンパスをかけた、市ヶ谷キャンパスの大学祭に参加した一人一人がそれぞれの思い出を描いてほしいという思いが込められています。4日間で約2万1000人が来場し、在学生、卒業生とご家族、近隣の方や中高生など、多くの方でにぎわった大学祭になりました。



1 外濠校舎入り口を彩り、来場者を出迎えた階段アート 2 幅広い年齢層の来場者が多数来場する「市ヶ谷鉄道研究会」の教室展示 3 屋台グランプリ前半部門のグランプリに輝いたフラッシュモブサークルの「ポークライスロール」 4 本学のサークルの中でも長い歴史を持つ「落語研究会」による寄席 5 「学生プロレス」のリング風景。迫力満点の試合を行う選手に惜しみない拍手が送られた 6 学祭1日目ステージ企画の「II部モダンジャズ研究会」の圧倒的なパフォーマンス

### 多摩 10月15日(土)～16日(日)

2022年度のテーマは「笑う多摩には、福来たる」。多摩祭に関わる全ての人が多摩キャンパスで充実した2日間を過ごしていただけるよう、2021年の12月から第75回自主法政祭多摩地区実行委員が準備を進めてきました。サークルの成果発表やプロ芸人出演のお笑い企画、どうぶつえんに縁日、屋台など、さまざまな企画で活気ある時間になりました。



1 多摩祭公式キャラクター「タマサイくん」がお出迎え 2 ステージ企画で見事な演奏を披露した軽音サークル「よせがに」 3 「法政大学 YOSAKOIソーランサークル風遠恋」による華やかなよさこいの演奏 4 出展した屋台から投票でグランプリを決める「屋台グランプリ」企画も開催 5 ひよこなどの動物と触れ合うことができる「どうぶつえん企画」は子どもたちに大人気 6 最終日には花火と音楽を楽しむ恒例の「多摩ナイト」が開催され、華やかに夜を彩った

### 小金井 11月3日(木・祝)～5日(土)

70回目となる2022年のスローガンは「Sparkle」。小金井祭をきっかけにこれからの大学生活が輝きにあふれかけがえないものになるように願いを込め、100人を超える企画実行委員会のメンバーが時間をかけて準備を進めてきました。3日間を通して、地域のご家族やお子さま、卒業生や受験生など、さまざまな方が来場し、キャンパスが大いににぎわいました。



1 今回も感染症対策のために事前予約制を取り、受付では入場者一人一人を確認 2 参加団体が趣向を凝らし作成した色とりどりのポスター 3 「ストラックアウト企画」では、景品を目指し多くの人がチャレンジした 4 「マンドリンクラブ」では練習の様子を公開 5 軽食やスイーツなどの屋台が並ぶ中庭には、終日にぎやかな呼び込みの音が響いた 6 毎年人気の「研究室紹介」では、普段は入れない研究室で、情報科学部、理工学部、生命科学部の研究を体験した

## HOSEI 1・2 Contents

- 02 HOSEI EYE 市ヶ谷・多摩・小金井キャンパスで大学祭を開催
- 03 総長と学生の座談会企画  
「誰かのため」に私たちができること  
～自由を生き抜く実践知～
- 08 陸上競技部駅伝チーム  
「次こそ総合5位!」安定したチーム力で箱根路に挑む
- 10 「カーボンニュートラル宣言」を公表しました
- 11 2023年度一般選抜に向けて
- 12 卒業生インタビュー  
「多様な価値観に触れ、固定観念を崩すと見えていない選択肢に気付ける」  
WFP国連世界食糧計画スーダン事務所  
ジェンダー・受益者保護官 並木 愛さん
- 14 ESSAY  
「医療現場で活躍する診断装置の現状と将来」  
理工学部応用情報工学科 教授 尾川 浩一
- 16 HOSEI PHRONESIS VOL.49  
「日本文学に息づく『伝統』を比較文学の領域から探究」  
国際文化学部国際文化学科 教授 衣笠 正晃

- 18 MY CAMPUS, MY LIFE  
現代福祉学部福祉コミュニティ学科 野田岳仁准教授ゼミ/キャンパス・エコロジー・フォーラム
- 20 Message 「学生が起こす『食』のイノベーション」  
社会学部社会政策科学科3年 井上 あすかさん(多摩地域交流センター  
登録学生プロジェクト「Team Ethical by ホーセイイノベーションクラブ」代表)
- 21 THE SCENE VOL.141 剣道部
- 22 後援会だより 「2023年を迎えるに当たって」 「支部長会議報告」ほか
- 26 HOSEI ミュージアム VOL.031  
「能楽の国際・学際的研究拠点 野上記念法政大学能楽研究所 対話する「伝統」と「現代」
- 27 校友会だより
- 32 HOSEI TOPICS
- 34 付属校短信
- 35 BOOKS  
裏表紙 体育会の活躍

### COVER 小金井キャンパス 撮影：平野太呂

澄んだ空、木の葉は落ち、小金井キャンパスの中庭には冬の風景が広がっています。奥に見える建物は北館で、理工学部の実験室や研究室が入っており、この日も多くの学生が学んでいました。

「2021年度自由を生き抜く実践知大賞」に応募した、私たちの取り組み

**菅原 太樹さん**  
Sugawara Taiki  
理工学研究科応用情報工学専攻1年  
(受賞当時は理工学部応用情報工学科4年)



大賞

【実践事例名称】  
ウェブアプリ「MINERVA」を用いた  
コロナ禍の安全な行事運営  
【実践主体】  
小金井企画実行委員会

小金井キャンパスで、学生行事を企画、主催する企画実行委員会を中心として、コロナ禍の安全な行事運営を目指し、来場者管理システム「MINERVA(ミネルバ)」を構築。2021年の大学祭で本格的に運用され、スマートフォンから操作するだけで、来場者一人ひとりが、いつでもどこにいたかを把握できるようになった。プライバシーを守るためのセキュリティーにも配慮されている。



システムを活用して来場者管理した大学祭での様子

**鴨 潤矢さん**  
Kamo Junya  
デザイン工学部  
都市環境デザイン工学科4年



ノミネート

【実践事例名称】  
コロナ禍での  
VSPオンラインボランティア  
【実践主体】  
法政大学学生スタッフ VSP  
(ボランティア支援プロジェクト)

ボランティアセンターに属する学生スタッフVSPでは、キャンパスの清掃などの定例活動の他、高齢者支援や地域支援、在留外国人のサポートなど多くのボランティア企画を立案。コロナ禍で対面企画の実施が難しくなったことからインターネットを活用した企画が考えられ、米国ペイラー大学との国際交流やウェブサイト作成支援などの新企画に取り組んだ。



高齢者へのLINEの使い方講座の様子

**山本 陽太さん**  
Yamamoto Yota  
現代福祉学部  
福祉コミュニティ学科4年



社会の課題解決賞

【実践事例名称】  
若葉台住宅  
ワクチン代行予約プロジェクト  
【実践主体】  
現代福祉学部  
保井・今井ゼミ

ゼミ活動の一環として、多摩キャンパス近くの若葉台住宅において地域支援活動を展開。インターネット操作に不慣れた住民の方に対して、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種予約をサポート。現地を訪れる学生は最小限として、他メンバーはリモートで後方支援することで三密を回避。個人情報の取り扱いに配慮しながら、全ての予約希望者の代行予約を成し遂げた。



ワクチン代行予約の様子



「2021年度自由を生き抜く実践知大賞」ノミネート一覧は以下からご覧いただけます。  
<http://phronesis.hosei.ac.jp/article/article-20211105181506>

知恵と思いやりの心を集めて  
コロナ禍の困難に立ち向かい、  
困りごとを笑顔に変える

「2021年度自由を生き抜く実践知大賞」にノミネートされた取り組みから、廣瀬総長が選んだ取り組みの代表の皆さんにお集まりいただきました。皆さんが実践された取り組みをご紹介します。

**山本**…私が所属する保井・今井ゼミでは、「地域に寄り添って、コミュニティ活動を支援する取り組み」を実践してきました。その一環で、多摩キャンパスの近くに位置する神奈川県相模原市の若葉台住宅にてインターネット操作に不慣れた住民の方を支援して、新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)のワクチン接種予約を代行しました。

**菅原**…私は2021年度に企画実行委員会委員長を務めていました。企画実行委員会とは、小金井キャンパスでの学生行事を主催し、企画や運営を行う団体です。コロナ禍で行事開催には制限が設けられるようになってしまったのですが、少しでも安心して来場していただくように、来場者管理システム「MINERVA(ミネルバ)」を構築しました。スマートフォンで操作できるウェブアプリで、来場者がいつでもどこにいたかを確認できる仕組みです。新人生歓迎会から運用テストを始め、大学祭では本格的に運用しました。

**鴨**…ボランティアセンターに所属する学生スタッフVSP(ボランティア支援プロジェクト)のメンバーとして活動して  
づくりを手伝うことを意識して取り組みました。アイデアを伝えるのではなく、対話を重ねながら意見をすり合わせ、どのようにしていきたいか一緒に考えるという具合です。運用面だけでなく、ウェブサイトをどのように使うのか、利用する側へのフォローも行いました。手間も時間も掛かりますが、効率を優先しようとするのは、こちらの都合の押し付けになってしまいます。相手の要望に応えることが大切なので、そこは気を付けて取

取り組みを実践していく過程で、大変だったこと、心掛けたことなどはあります。

**山本**…まずは、三密を作らないための対策が必要でした。現地でサポートする班とリモートでパソコン処理をする班に役割を分担し、ネット経由でやりとりをしながら進めました。さらに、大切な個人情報扱を扱うことになるので、接種券を預かる前に誓約書を書いていただき、予約処理が終わったらお預かりした情報はきちんと破棄する旨を説明してご理解いただきました。デジタルに強い私たち学生と、住民から信頼を得ている自治会の方々が力を合わせることで、大きなトラブルもなくやり遂げられたのだと思います。

**鴨**…ボランティア企画は、長く継続できる施策を考えるようにしています。例えば、これも食堂のウェブサイトで作成支援は、支援相手が自分たちで運用していくための体制



います。2020年度以降、コロナ禍により対面で交流する多くの機会が失われ、ボランティア活動に多くの影響が生じていました。それでも何かできることはあるはずだと模索するうち、コロナ禍ならではのボランティア活動が生まれました。その具体例が米国ペイラー大学との国際交流と、埼玉県ふじみ野市のこと、も食堂のウェブサイトで作成支援です。今までの活動の枠を超えて、新たなつながりを広げることができました。

**菅原**…コロナ発生後の2020年度は、厳しい行動制限で学生同士がつながる場所、地域とつながれる機会が次々と失われました。企画実行委員会の誰もが「なんとか学生行事を開催したい」と切望していたのです。そこで、コロナの収束をただ待つのではなく、自分たちの強みであるIT(情報技術)スキルを駆使して、対策を講じることにしました。

**山本**…活動対象の若葉台住宅とは、「若葉台住宅を考える会」という自治会を軸にした住民組織と連携する形で、コロナ前から交流を続けていました。コロナ禍で活動を控えざるを得なかったのですが、自治会側から「インターネットに不慣れた住民は、コロナワクチンの予約操作ができずに困っている」という相談を受けたのです。そこで、どのような支援ができるかをゼミ内で検討した結果、予約操作を代行することにしました。

り組んでいました。

**菅原**…前例のないことへの挑戦という意味では、大変なことばかりでした。情報処理の基礎知識を理解しているとはいえず、これまでにウエブアプリの開発に携わった経験はありません。うまく動作しないときにミスがどこにあるのか分からないなど、課題は山積みでした。さらに、システムの運用を認めてもらうまでには、多くのチェックが必要でした。わざわざアプリを開発しなくても、紙に記入してもらおう方式で管理すればいいという保守的な意見もあれば、数千人が集まる大学祭の来場者管理を学生が作ったシステムに任せていいものかと危惧する意見もありました。その一つ一つの意見に対処して問題をクリアしました。

——逆に、取り組みの中で喜びや達成感を感じたりしたことはありませんか。

**菅原**…私は将来的にエンジニアとして働きたいと思っているので、現役のエンジニアの方から、ミネルバに対する技術的な感想や評価の声を届くのは、とてもうれしかったですね。



**総長**…先ほど、誰もが使えるように情報を公開したことを評価しましたが、実際の運用を考えると、そのまま利用することは難しいと思います。オーダーメイドのシステムは環境に合わせてカスタマイズされているからこそ、使い勝手がいいのです。逆に言えば、同じシステムを使いたいと思っても、自分の環境に合うように手を加えなければ、実装できないでしょう。ただ、ベースの仕組みが分れば、応用するのは楽なので、情報を公開することで発想の刺激になり、課題解決の参考になっただろうと思います。

**山本**…印象深く残っているのは住民の皆さんからの感謝の言葉ですが、思いがけない波及効果がありました。今回のワクチン代行予約の活動をきっかけに、住民組織「若葉台住宅を考える会」に新たな有志が加わってくれたのだそうです。私たちのゼミは担当教授がご逝去されたため、活動は2022年度が最後と決まっています。地域の将来には若い力が必要ですから、間接的にでもその力を集めることに関与できたのはうれしかったですね。

**総長**…ワクチン接種に関しては、自治体ごとに進め方や速度が異なっていて、同じ東京近郊の自治体であっても、その時々での困りごとは多様でした。それぞれに違った種類の助けが必要な人がいますから、どうすればサポートできるかを示し、地域の自立した運用を促す道筋が作れたことは素晴らしいですね。

**鴨**…私もやはり、お礼の言葉をいただけることが何よりうれしく、やりがいを感じます。興味本位で始めたボランティア大きなジレンマを抱えていました。もちろん、オンラインで知識を学ぶことはできたのですが、自分で考えて行動し、人との交流を通じて何かを成し遂げる手応えを感じたかったです。そんな中でワクチン代行予約活動は、貴重な学びの機会になりました。

**総長**…「自由を生き抜く実践知」は法政らしさを一言に凝縮させた言葉ですが、もう一つ、法政らしさを表す言葉を伝えるとすると「質実穩健」が挙げられます。穏やかな態度で地道にコツコツと課題に向き合い、地に足を着けて現実を生き抜いていく姿こそ、法政らしさを端的に表しています。

**鴨**…実は高校時代の校訓が「質実剛健」で、いい言葉なのですが、自分には合わないと感じていまし



活動ですが、さまざまな問題と向き合ううちに、「解決のために何をすべきか」と意識して考えるようになりました。関わった一つ一つが自分の成長につながる貴重な機会だったのだと改めて感じます。

——皆さんの取り組みは、現在どのよう  
に展開しているのでしょうか。後日談などがあれば教えてください。

**山本**…「若葉台住宅を考える会」との連携企画として、地元商店街の協力を得て、ショッピングセンターの一角に新たなコミュニティスペースを設けました。ゼミ活動としての地域貢献は、2022年度が最後になるので、次につながる活動成果を一つ残すことができて良かったです。個人的な話になりますが、大学に入る以前から多くの人に助けられてきたので、その恩返しの意味で「人の役に立てる自分でありたい」と思い続けてきました。卒業後は、システムエンジニアになります。文理の力を発揮できることが自分の強みだと思うので、新たな形で社会貢献に取り組んでいきたいです。

**総長**…現代福祉学部は「健康で幸せな暮らし（ウェルビーイング）」の実現を目指す学部です。より良い社会のために、ウェルビーイングの質を向上させていく。その理念が、どのようにシステムのデザインに取り入れられるのか楽しみです。

**鴨**…VSPには今後も新たな企画が誕生し続けると思っています。これからは企画側ではなく、参加者として関わり続けていきたいと考えています。ボランティアは一つのコミュニケーションツールだと思うので、行動は続けていこうと考えています。

**総長**…自分らしいスタイルで地道に取り組むことが、課題解決に続く道なのだと思います。派手な「剛健」パフォーマンスに惑わされることなく、胸を張って「質実穩健」のスタイルを貫いてください。期待しています。



ます。社会に潜在する困りごとに対してアンテナを張り、表面化されづらい課題を受け止められるようなボランティア活動を続けていけたらいいですね。

**菅原**…企画実行委員会のメンバーは次年度の活動を見据えて動き始めています。小金井キャンパスのイベントはアットホームで、特に大学祭は近隣市民の方々が家族連れで訪れられる地域交流の場になっています。中庭で子どもたちが楽しそうに走り回るといって、コロナ前は当たり前に見られた日常を取り戻すことを目標に、委員会メンバーは活動を頑張ってくれています。私自身は、ミネルバの開発と運用を通じて、小さなプロダクトでも社会に還元することで価値を生み、喜んでくれる人がいることが自信になったので、これからも人の役に立てるシステムを手掛けていきたいです。

「質実穩健」の  
スタイルを大事にし、  
世の中に貢献していく。

——コロナ禍という困難に直面し、より「自由を生き抜く実践知」という言葉の持つ意味の重要性が増したように思いますが、いかがでしょうか。

**総長**…法政大学憲章とともに「自由を生き抜く実践知」という言葉が誕生したのは2016年。歴史の中で培われた「法政らしさ」を凝縮したのですが、検討過程では「質実穩健」という言葉も出されてきました。皆さんの実践の中には「自由を生き抜く実践知」と「質実穩健」が両方あふれていると感じました。

——最後に、卒業生の皆さん、在校生の皆さんにメッセージをお願いします。

**総長**…コロナ禍という困難の中で、もがきながら前に進んだ学生たちは、今年度もたくさんの「自由を生き抜く実践知」を開花させました。けれど、それらはコロナ禍でなければ発露できなかったわけではありません。それぞれの学生が、潜在的に「自由を生き抜く実践知」につながる種を持っています。卒業された皆さんも自分たちの学生生活を振り返り、日常のさまざまな活動の中で得た学びや経験を思い出してみてください。そこには、それぞれの「法政らしさ」、それぞれの「自由を生き抜く実践知」が息づいているはずですよ。これからも、それぞれの生活の中で「自由を生き抜く実践知」を発見し続けてみてください。その姿を楽しみにしています。本日はありがとうございました。

一同…ありがとうございます。



近年、社会全体がコロナ禍という「困りごと」に直面したことで、それぞれが持つ「自由を生き抜く実践知」をどう発現させるのか、真価が試されるようになりました。窮屈な環境を嘆いて時間が過ぎるのを待つより、「今できることは何か」と発想を切り替えて行動を起こせば、ピンチはチャンスに変わります。これまでの環境ではできなかった創意工夫をしながら、今の環境を生かした活動を提案する。その経験が刺激になって、新しい自分に出合えるかもしれない。そのチャンスを楽しんでほしいと願っています。

——皆さんにとつての「自由を生き抜く実践知」とはどのようなものですか。

**菅原**…誰かの役に立ちたい、自分たちの生活をより良くしたいという思いは、日頃から思い描いていたことでした。でも、コロナ禍という多くの人が困っている極限的な状況に陥ったことで、「なんとかしたい、自分に何ができるだろう」という思いが強くなり、一歩踏み出す力にできたと思っています。その時には意識していませんでしたが、結果的に、課題解決に向けてもがいたプロセスそのものが「自由を生き抜く実践知」なのではないかと思に至りました。

**山本**…自分から行動を起こして得た経験や知識こそ、自分を成長させてくれる「実践知」なのだと感じています。地域の方々と触れ合う活動がしたい、地域に貢献したいと思ってゼミを選んだのに、いざゼミに入ってみたら活動し

# 出場候補選手一覧

1 学部・学科・学年 2 出身高校 3 ベストタイム(2022年10月31日現在) 4 箱根駅伝への意気込み



内田 隼太  
うちだしゅんた

1 経済学部経済学科4年 2 法政大学第二高等学校(神奈川県) 3 5000m 13分39秒26、10000m 28分50秒49 4 区間賞目指して頑張ります!



扇育  
おおぎ ほぐみ

1 経済学部経済学科4年 2 松浦高等学校(長崎県) 3 5000m 14分06秒43、10000m 29分07秒34 4 チームに貢献する走りをお願いします!



川上 有生  
かわかみ ゆうき

1 スポーツ健康学部スポーツ健康学科4年 2 東北高等学校(宮城県) 3 5000m 14分07秒96、10000m 29分06秒97 4 総合5位に向けて走ります!



中園 慎太郎  
なかその しんたろう

1 社会学部社会学科4年 2 八千代松隆高等学校(千葉県) 3 5000m 14分21秒40、10000m 28分58秒54 4 笑顔で終わられるよう頑張ります!



松本 康汰  
まつもと こうた

1 社会学部メディア社会学科4年 2 愛知高等学校(愛知県) 3 5000m 13分46秒62、10000m 28分52秒82 4 大手町で笑って終わられるよう頑張ります!



山本 恭澄  
やまもと たかすみ

1 経済学部経済学科4年 2 伊賀白鳳高等学校(三重県) 3 5000m 14分22秒81、10000m 29分56秒55 4 目標の5位に向け、力の限り頑張ります!



稲毛 崇斗  
いなげ たかひと

1 社会学部メディア社会学科3年 2 東北高等学校(宮城県) 3 5000m 14分19秒74、10000m 29分09秒61 4 5位目指して全力で頑張ります!



緒方 春斗  
おがた はると

1 経済学部経済学科3年 2 自由ヶ丘高等学校(福岡県) 3 5000m 14分34秒93、10000m 29分27秒96 4 チームに貢献します!



高須賀 大勢  
たかすか たいせい

1 生命科学部環境応用化学科3年 2 専修大学松戸高等学校(千葉県) 3 5000m 14分29秒98、10000m 31分29秒62 4 走りでご貢献できるように一生懸命頑張ります!



細迫 海気  
ほそき かいき

1 社会学部社会学科3年 2 名古屋経済大学高蔵高等学校(愛知県) 3 5000m 14分28秒08、10000m 29分24秒60 4 箱根の借りを箱根で返します!



松永 伶  
まつなが れい

1 経済学部経済学科3年 2 専修大学松戸高等学校(千葉県) 3 5000m 13分50秒45、10000m 28分59秒26 4 チーム目標達成に向けて頑張ります!



三原 伶王  
みはら れお

1 経済学部現代ビジネス学科3年 2 鳥栖工業高等学校(佐賀県) 3 5000m 14分31秒12、10000m 30分17秒31 4 総合5位に向けて頑張ります!



宗像 直輝  
むなかた なおき

1 社会学部社会政策科学科3年 2 東京農業大学第二高等学校(群馬県) 3 5000m 14分10秒00、10000m 29分25秒43 4 3年目こそは出走します!



上仮屋 雄太  
かみかり ゆうた

1 経済学部経済学科2年 2 須磨学園高等学校(兵庫県) 3 5000m 14分32秒90、10000m 30分46秒86 4 感謝の気持ちで胸一杯頑張ります!



小泉 樹  
こいずみ いつき

1 現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年 2 國學院大学久我山高等学校(東京都) 3 5000m 14分16秒32、10000m 29分13秒48 4 区間賞取れるように頑張ります!



高橋 一颯  
たかはし いてっさ

1 社会学部社会学科2年 2 名古屋経済大学高蔵高等学校(愛知県) 3 5000m 14分29秒85、10000m 31分54秒92 4 5区に出走しチーム目標5位に貢献します!



武田 和馬  
たけだ かずま

1 社会学部社会学科2年 2 一関学院高等学校(岩手県) 3 5000m 14分22秒10、10000m 29分25秒38 4 区間賞を取ります!



宮岡 幸大  
みやおか こうだい

1 スポーツ健康学部スポーツ健康学科2年 2 宇和島東高等学校(愛媛県) 3 5000m 14分08秒62、10000m 29分40秒79 4 総合5位以内目指して頑張ります!



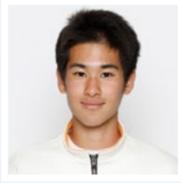
横井 嵩洋  
よこい たかひろ

1 社会学部メディア社会学科2年 2 中京大学中京高等学校(愛知県) 3 5000m 14分36秒34、10000m 30分54秒50 4 チーム目標に貢献できるように頑張ります!



大島 史也  
おおしま ふみや

1 社会学部メディア社会学科1年 2 専修大学松戸高等学校(千葉県) 3 5000m 13分50秒04、10000m 29分24秒23 4 総合5位以内に貢献できるように頑張ります!



澤中 響生  
さわなか ひびき

1 現代福祉学部福祉コミュニティ学科1年 2 自由ヶ丘高等学校(福岡県) 3 5000m 14分24秒76、10000m 31分21秒61 4 爆走します!



清水 郁杜  
しみず いくと

1 社会学部社会政策科学科1年 2 米子松隆高等学校(鳥取県) 3 5000m 14分04秒06、10000m 29分57秒47 4 区間5位以内目指して頑張ります!



高橋 彰太  
たかはし しょうた

1 スポーツ健康学部スポーツ健康学科1年 2 東北高等学校(宮城県) 3 5000m 14分07秒72、10000m 30分25秒99 4 自分の力を最大限出せるよう頑張ります!



矢原 倅瑛  
やはら こうえい

1 経済学部経済学科1年 2 今治北高等学校(愛媛県) 3 5000m 14分30秒21 4 チームに貢献できるように頑張ります!

法政大学公式チャンネルにて「箱根駅伝応援動画」を12月下旬に公開する予定です。ぜひご視聴ください。

<https://www.youtube.com/user/hoseiPR>

## 陸上競技部駅伝チーム

# 「次こそ総合5位!」 安定したチーム力で箱根路に挑む

2022年の年明け、3年ぶりのシード権を得て歓喜に沸いた陸上競技部駅伝チーム。次の「第99回東京箱根間往復大学駅伝競走(以下、箱根駅伝)」でこそ総合5位を実現しようと闘志を燃やすチームの意気込みを坪田智夫駅伝監督と内田隼太主将に聞きました。



坪田 智夫 監督  
つぼた ともお

陸上競技部駅伝チーム監督。1996年法政大学社会学部社会政策科学科入学と同時に陸上競技部に所属し、エースとして活躍。4年次に出場した第76回箱根駅伝では最長区間(当時の「花の2区」)を快走し、区間賞を獲得。卒業後は実業団に所属していたが、2011年に本学駅伝チームのコーチに就任。2013年から現職。

### 「法政ならではの「和」の力が チーム全体の力を底上げ

「ゴール直前で劇的な逆転を果たした前回(第98回)大会。3年ぶりにシード権を奪還した瞬間を振り返り、「最後まで諦めない走り、逆転につながったと思います。10区でそうした走りできたのは、前の9人が安定して襷(たすき)をつないでくれたから。みんなでつかんだシード権です」と坪田智夫監督は語ります。

何が起るかわからない駅伝競技では、誰か一人が頑張るだけでは勝てません。主将としてチームをまとめている内田隼太選手は「チームの雰囲気は、箱根駅伝の結果に直結するので、襷をつなぐ10人だけじゃなく、約50人の部員全員がそれぞれ自分の力を底上げしていこうと、チーム内ではよく話し合っています」と語ります。

法政大学の駅伝チームでは、伝統的に4年生の面利の良さに定評があります。けがや不調で力を出せない選手に寄り添い、復活を信じて待つ「優しさ」を見せるのも、強くなるには努力するしかないという「厳しさ」を見せるのも、常に4年生です。その姿勢が後輩にも伝わり、信頼感のある「和」を醸成。今では、誰が襷をつなぐことになっても全員で支えて応援するのが当然という、強い信頼関係が生まれています。「法政には、下位から選手をこぼさず抜ぎ流れていくリセットできるような怪物選手はいません。でも駅伝はチーム力が勝

### 「これまでの記録に並ぶ7位タイで チームに自信を付けた出雲駅伝

10月の出雲全日本大学選抜駅伝競走(出雲駅伝)での走りは、チームに自信をもたらせました。結果は7位でも「チームの力試しには満足いく収穫を得ました」と語る坪田監督。その一策が、これまで1区を務めていた内田選手を3区で起用したことです。

監督の期待を背負った内田選手は、前年の優勝校・東京国際大のエース丹所健選手を抑え、区間4位の快走を果たしました。「他大のエース格とも戦える手応えを感じました」と自信をのぞかせた内田選手。「前エースの鎌田航生さんが抜けた枠は自分が務め、今度こそ総合5位を取りたい」とチームの目標達成に向けて意欲を見せます。他にも注目選手が控えています。期待されるながらもけがに苦しんでいた扇育選手は、最後の箱根を前に出雲駅伝で復調の兆しを見せています。前回の箱根3区で法大記録を30秒以上も更新した小泉樹選手、山下りの6区で区間2位に輝いた武田和馬選手などは、2年目の成長に期待が集まります。最後に坪田監督と内田主将から、本戦に向けた決意が語られました。「支えていただいていることに日々感謝しています。皆さんの思いに伝えるには力の限り走るしかありません。最後まで諦めず走り続ける姿をお見せしたい」(坪田)

「昨年達成できなかった目標のリベンジに向けて、全員が一丸となって練習に励んでいます。シードの常連校に食い込めるように力を合わせて頑張りますので、応援よろしくお願いします」(内田)

第99回箱根駅伝の開催は、2023年1月2日(月)、3日(火)です。皆さま、駅伝チームの応援よろしくお願います。

「カーボンニュートラル宣言」を  
公表しました

本学では、気候変動が地球社会に与える影響や状況を受けて、  
大学全体としてカーボンニュートラルおよび脱炭素社会の実現に向けた取り組みを一層加速させるために、  
総長ステイメントとして「カーボンニュートラル宣言」を2022年9月16日に公表しました。



事業活動における温室効果ガスの排出量削減を目指すとともに、  
教育機関として地球規模の環境・社会問題に取り組むことが  
できる人材を育成し、社会に輩出することを目指します。また、  
研究機関として、他大学、自治体、企業等と連携し、最先端  
の研究によって脱炭素の持続可能な社会に貢献していきます。  
以下が取り組み内容です。

- 1 本学は、現在の気候変動の危機を深く認識し、広く社会と問題意識を共有して、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めます。
- 2 本学におけるエネルギー使用量及び温室効果ガス、特に二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) の排出量の削減に向けた目標および行動計画を策定し、その削減に努めます。
- 3 地球規模の環境・社会問題に取り組む人材の育成やそのためのリテラシー向上を図るため、多様なカーボンニュートラル教育プログラムを提供します。
- 4 カーボンニュートラルの推進に向けて、他大学、自治体、企業等と連携して、研究・技術開発を進め、その研究成果を発信・展開していく場を共創するとともに、社会実装を促進します。
- 5 気候変動緩和策としてのカーボンニュートラルの推進とともに、気候変動の影響に対して、自然や人間社会のあり方を調整し、被害を抑制するための気候変動適応策(※1)を実施します。
- 6 ネットワークアプローチ(※2)に基づき、SDGsのゴール13番「気候変動に具体的な対策を」だけでなく、関連する他のゴールにも同時に取り組むことによって、カーボンニュートラルで持続可能な社会の実現に貢献します。

(※1) すでに起こりつつある、あるいは起こりうる気候変動影響への対策や備え(熱中症予防、感染症対策等)。

(※2) 世界的課題の相関性を考慮しながら各課題の解決を目指す方法。

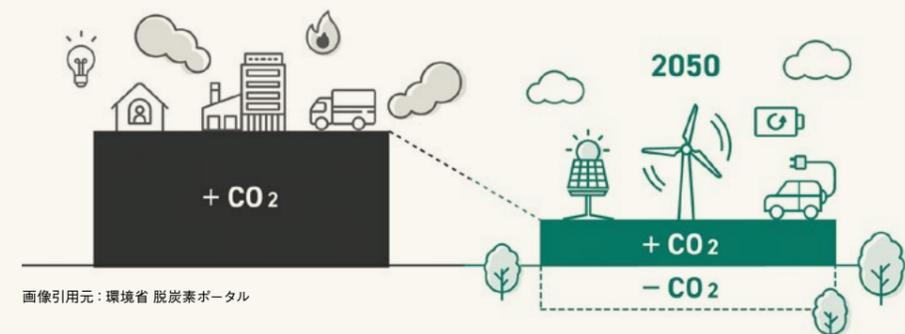
なお、本学では、2022年度よりグリーン電力証書システムに参加し、年8,732,107kWh相当量の自然エネルギーの普及に貢献しています。



カーボンニュートラル宣言の詳細は、大学ウェブサイトを確認できます。

カーボンニュートラル宣言

<https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/carbon-neutral/>



画像引用元：環境省 脱炭素ポータル

General  
entrance  
examination



## 2023年度一般選抜に向けて

2022年度  
一般選抜概況

本誌8・9月号で既報のとおり、本学の2022年度一般選抜志願者数は、前年度から1万7387人増の10万8343人で、2年ぶりに10万人を超えました。過去最高の12万人を超える志願者を獲得した2018年度一般選抜以降、本学の志願者数は毎年減り続けてきましたが、今回4年ぶりの増加となりました。大学別志願者数ランキングも前年度から三つ順位が上がって全国第3位、学内併願を除いた実志願者数は5万2756人で、2年ぶりに全国第1位となりました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた2021年度一般選抜では、本学も含めて多くの大学で志願者が減少しました。2022年度一般選抜も、いわゆる第6波の時期と重なり、全国各地でまん延防止等重点措置が実施されていたため、志願者のさらなる減少も心配されましたが、志願者数に関しては全体的に回復傾向となりました。この間、さまざまな感染予

2023年度  
一般選抜における変更点

防対策が講じられるようになり、コロナ禍の新しい生活様式がある程度定着したことで、また、大学の授業も対面形式中心に戻り、課外活動や海外留学なども徐々に実施されるようになったことにより、都市圏の大規模大学を受験することへの抵抗感が、前年と比較してかなり薄れてきたのではないかと考えられます。

2023年度一般選抜では、経営学部の全学科で新たに英語外部試験利用入試(出願資格型)を実施します。これにより、全15学部で英語外部試験利用入試の受験が可能となりました(文学部は英文学科のみ、経済学部は国際経済学科のみ実施)。

また、スポーツ健康学部では大学入学共通テスト利用入試C方式(5教科6科目型)を新たに実施します。これにより、国際文化学部とGIS(グローバル教養学部)を除く13学部で同方式の受験が可能となりました。

一般選抜における  
新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の罹患などにより、2023年度一般選抜のう

ち、T日程入試、英語外部試験利用入試、A方式入試を受験できなかった場合は、2022年度一般選抜と同様、一定の条件のもと、追加の入学検定料(受験料)なしで同一学部・学科(専修)の大学入学共通テスト利用入試B方式(3教科型)への振り替えを可能とする特別措置を実施します。詳細につきましては法政大学入試情報サイトでご確認ください。

2023年度も受験生の皆さんが安心して試験に臨めるように、全ての試験会場において、感染予防対策として、座席間の距離の確保、監督者や誘導員のマスクやフェイスシールドなどの着用、受験生のマスク着用、各所への手指消毒液の設置、会場内の定期的な消毒や換気などを行います。新型コロナウイルス感染症自体、いまだ収束していませんが、これまでに培ったノウハウを生かして、無事に試験が実施できるよう準備を進めていきます。

現在、法政大学入試情報サイトに「2023年度入学試験要項」を公開中です。ので、そちらもぜひご参照ください。



法政大学入試情報サイト <https://nyushi.hosei.ac.jp/>



ルワンダの小学校で。現場ではふがいないと感じることも多いが、子どもたちの笑顔に元気をもらっている

高校生のときに、イタリアで世界遺産の保護について学びたいと考え、派遣留学先にイタリアの大学がある政法大学に進学しました。

入学後はサイクリング同好会に入り、2週間のツーリングを重ねるうちに、思ったより野生的で、人と触れ合うのが好きな自分を発見。同時に、幼い頃からの異文化への好奇心が膨らんで、インドやタンザニアにも行きました。電気やガスがなくても幸せに暮らしている、そうした自分とは異なる文化や

価値観を持つ人に出会うとワクワクし、自分の中の固定観念が徐々に崩れていったのです。

また学生時代には、進路に影響を及ぼす出来事が二つありました。一つは、東日本大震災のボランティア活動です。避難者のニーズ調査を担当し、500人の大半が自分に関することをリクエストする中で、自分のことではなく、受験生の娘のために「デスクライト」をリクエストした方がいたので。これが、現地の声に耳を傾け、人々が尊厳を取り戻す手助けをしたという私の原体験となりました。

もう一つはイタリア留学中に訪れたモロッコでのホームステイです。貧しい暮らしにもかかわらず、温かくもてなしていただき、世界遺産の建物や風景よりも、人々の生活や命を守る仕事にしたいと考えが変わりました。

卒業後すぐに人道支援の仕事に就くことも考えましたが、「現場で動くだけでなく、体系的な勉強も必要」というアドバイスを受けて、ロンドンの大学院に進学。帰国後は、問題解決のスキルを身に付けるために、コンサルティング会社に就職しました。

干ばつ、政情不安にウクライナ紛争が追い打ちその後、国連ボランティアなどの任期付き派遣を経て、国連WFPの正規職員になりました。国連WFPは、国連の機関には珍しく、現場主導で動く巨大なベンチャー企業のような組織で、ボトムアップ、結果主義の風土が私にとっても合っています。

国連WFPは2020年にノーベル平和賞を受賞しましたが、活動している120の国と地域の大半が資金難という大きな課題を抱えています。スーダンでも、気候変動による水害、政情不安や高いインフレ率などによって支援を必要とする人が増える一方で、ウクライナ紛争の影響で食料価格が高騰し、必要量の食料を手でできなくなり

世界には、自分で意思決定のできない境遇にある人が大勢いますが、日本の大学で学んだ皆さんなら、多くの機会や選択肢を手にはしているはずですが、行動範囲が狭かったり、固定

選択肢があるのは幸せ自分らしく生きてほしい

観念にとらわれていたりすると、その一部しか目に入りません。ぜひ、卒業生や興味のある人などにどんな話を聞いて、足を動かしてとんと考えて、視野や考え方を広げてくださいます。きっと、それまで見えていなかった選択肢や自分の気持ちに気付けることでしょう。また、周囲の期待や反応を気にしすぎず、自分の心に従うことも大切だと思います。一度きりの自分の人生なので。これからも、「声の小さな人」、現地の声に耳を傾けて支援活動に励み、将来は所属する組織の形式や大小を問わず、自分が納得できる形で社会にインパクトを与えられたら何よりです。

Namiki Ai

1989年千葉県生まれ。2008年法学部国際政治学科に入学。2011年から1年間ヴェネツィア大学に派遣留学。2013年卒業後、ロンドン大学政治経済学院に留学。2014年デロイト・トーマツコンサルティング株式会社(当時)入社。外務省の平和構築人材育成事業の海外実務研修でWFP国連世界食糧計画(国連WFP)のジバエ事務所勤務。外務省のJPO派遣制度で同ルワンダ事務所に勤務。その後、同スーダン事務所に勤務、2022年11月からは正規職員として働く。



※撮影時のみマスクを外し、安全に配慮して撮影しています。



# 多様な価値観に触れ、固定観念を崩すと見えていない選択肢に気付ける

WFP国連世界食糧計画スーダン事務所 ジェンダー・受益者保護官

## 並木 愛さん

学生時代に経験した被災地ボランティアとモロッコでのホームステイをきっかけに、人道支援に携わろうと決意し、大学院とコンサルティング会社勤務を経て国連WFPの職員となった並木愛さん。多様な価値観に触れて固定観念を崩していけば、選択肢は広がっていくといいます。

このページでは、法政大学憲章の「自由を生き抜く実践知」を体現している本学の卒業生を紹介していきます。



明るく前向きなスーダンの人々に囲まれて(前列右から2人目が並木さん)

アフリカのスーダンで1000万人に食料を支援

WFP国連世界食糧計画(国連WFP)のスーダン事務所では、十分な食料を得られないスーダン人、国内避難民と隣接国からの難民の1000万人を対象に食料支援活動を行っています。配給所で障害者や高齢者のための列があるかなどをモニタリングし、女性や子ども、障害者など「声の小さな人」へ確実に食料が届くようにするのが、ジェンダー・受益者保護官の役目です。

スーダンの面積は日本の約5倍もあり、普段は首都ハルツームの事務所、20ある支部の担当者からのリクエストに対応したりサポートに当たったりしています。隔月で1週間ほど各地の難民キャンプなどに出向き、直接声を聞いてニーズや状況を確認しています。

国連WFPの支援には「傷口にばんそうこうを貼って終わり」という声もありますが、食料配布以外の支援も



# 医療現場で活躍する 診断装置の現状と将来

理工学部応用情報工学科 教授

尾川 浩一



## X線CTの出現

X線CT（X線計算断層映像化法）画像を使って、新型コロナウイルス感染症に罹患した患者の肺炎の重症度を診断していることは、テレビのニュースでもしばしば紹介されます。このX線CTは、患者の周りを回転するX線管とX線検出器を用いて、人体を透過してきたX線の量をさまざまな方向から計測し、数学的な手法により体内の臓器の形状をコンピュータで映像化しています。

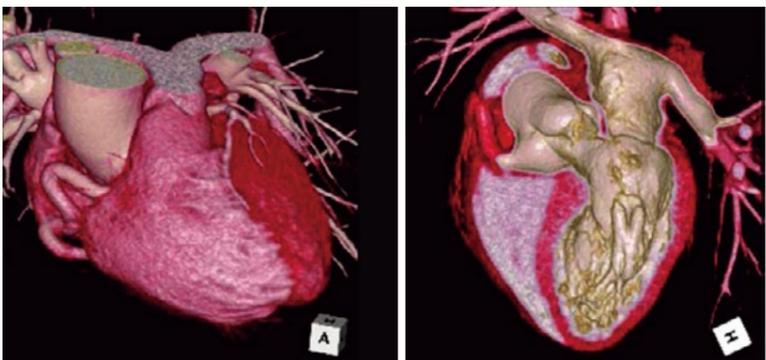
このX線CT装置の登場は今から50年前の1972年ですが、それまでは人体に対してさまざまな方向からレントゲン写真を撮影して、医師が頭の中で疾患部を立体的に想像して診断や治療をしていました。その後の技術開発により、あたかも人間の体を輪切りにして内部の構造

を観察するような道具を医師が得たわけ、正確な診断が可能となり、医学に大きな変革をもたらされました。

磁気共鳴イメージング（MRI）も昨今では耳慣れた言葉になっていますが、これもX線CTと同じ時期に開発されたもので、両装置とも種々の疾患を映像化する技術として今や必須のものとなっています。

このような画期的な診断技術開発の黎明期に大学時代を送った私は、この「不可視情報を可視化する技術」に魅せられ、以後40年以上にわたって研究の対象としてきました。これらの技術では、人体内部の情報を外部に取り出すために、人体を透過できるX線やラジオ波などエネルギーの高い波動が必要です。この波が人体の組織と散乱、吸収などの相互作用を起こすことで、X線の透過量が減少した

子の数をエネルギーごとに計測する技術も生まれています。



X線CTで映像化した心臓の概形(左)と左心室の断面図(右)  
(提供：慶應義塾大学医学部放射線科、陣崎雅弘教授)

これはフォトンカウンティングCTと呼ばれる技術で、私の研究室でも2012年にベンチャー企業と、1画素0・2ミリ×0・2ミリで1秒間に1平方ミリメートル当たり1000万個の光子の計測が可能な検出器を開発し、当時、世界最高クラスの性能を達成しました。このような検出器を使ったCTでは透過したX線のエネルギー情報が得られるた

め、正確な媒質の分離や、診断と治療が一体化した次世代の診療パラダイムが期待でき、当研究室でもさまざまな研究を続けています。

## 臓器の機能を映像化する 核医学診断装置

X線CTが臓器の形状を映像化する技術とすると、核医学の診断装置は臓器の機能を映像化する技術といえるでしょう。核医学では、人体に全く影響のないごく少量の放射能を付加した放射性医薬品と呼ばれる薬剤を患者に投与し、その薬が人体の特定の臓器に集積するのを待ちます。その後、放射性医薬品に付加された放射性同位元素から放出されるガンマ線を体外の検出器で計測し、体内の臓器の機能を映像化します。ガンマ線もX線同様に放射線の一種で人体を透過する能力があり、体外からの計測によってその分布を映像化することで臓器の機能状態、例えば現在増加しているアルツハイマー病の診断画像を作ることができます。これらはSPECT（単光子放出型CT）という装置で映像化します。

また、PET検査という言葉も聞いたことがあると思いますが、これはがんの場所をPET（陽電子放出型CT）という装置で映像化する技術です。こちらは不安定な原子が陽電子を放出して安定した状態になるときに、その陽電子が崩壊して2本のガンマ線が放出されるのを利

り（X線CTの場合）、ラジオ波の放出量が位置ごとに変化したり（MRIの場合）して、体内を映像化します。

## X線CTの現状とこれから

現在の最新鋭のX線CT装置では、心臓の動きをほぼリアルタイムで映像化し、心臓が動いている様子を動画として見ることも可能となっています（図参照）。これによって、心臓の冠状動脈が狭くなったり詰まったりして起きる狭心症や心筋梗塞の治療の方法を患者さんに動画で説明することもあり、X線CTは私たちの健康を支える重要な診断装置になっています。

このX線CTでは、X線の計測において透過したX線のエネルギーの総和を求めますが、さらに新しい技術ではX線を光子として捉え、単位時間に入射する光子としてがんの位置を特定します。アルツハイマー病が診断できても、治療できなければ意味がない、と言われるかもしれませんが、治療薬が盛んに開発されている現在、治療の経過観察をSPECT画像で行うことも可能となっていて、未来は明るいと思っています。

私の研究室では検出器を動かすことなく、ガンマ線を収集して放射性同位元素の分布を映像化する新しいSPECT装置の開発にも取り組んでいます。

## 医療の今後

現在、人工知能（AI）技術が診断の現場に入りつつあり、医学のビッグデータで学習した頭脳で行うAI診断は、熟練した医師には劣るものの、若い医師の診断をしのぐような時代になってきています。誤診が起きたときに、「なぜ正確な診断が可能なAIを使わないで、医師が診断したのか」と訴訟になる時代がやってくる可能性があります。

日進月歩のAI技術開発はとどまるところを知らない状況にあり、その利用はX線CT、MRI、SPECT、PETなどの画像を生成する画像再構成の分野まで拡大しています。その意味では、従来の数学的手法に基づく画像の再構成ではなく、データ駆動型の最適化理論による、個々の物理モデルに基づいた画像生成に移行しつつあるといえ、この領域に関する研究も鋭意進めています。



Ogawa Koichi

1957年生まれ。1982年慶應義塾大学大学院修了、同医学部放射線科助手。1991年法政大学工学部助教授、1998年同教授。工学博士。2014～2016年理工学部長、2017～2021年常務理事、副学長。2020年 Outstanding Medical Physicist Award (アジア・オセアニア医学物理学会) 受賞。専門は医用画像工学。著書に「医用画像工学ハンドブック」(日本医用画像学会編、2012)、「画像・情報処理」(国際文献社、2018)など。

CT: Computed Tomography  
MRI: Magnetic Resonance Imaging  
SPECT: Single Photon Emission CT  
PET: Positron Emission Tomography  
AI: Artificial Intelligence

## 日本文学に息づく「伝統」を 比較文学の領域から探究

米国に留学した経験を生かし、国際的な視野に立って日本文学の研究に取り組む衣笠正晃教授。  
文学作品の中に脈々と息づいている「伝統」を読み取り、その本質に迫ろうと研究を進めています。

国際文化学部国際文化学科 教授 衣笠 正晃



文学の「外側」を探究して  
日本の伝統の本質を探る

比較文学の観点から、日本に息づいている「伝統」を探究しています。学部生時代はフランス文学に触れ、海外作品が日本文学に与えた影響などを研究していました。その後、海外から日本文学を見つめ直そうと、留学を決意。「よそ者の視点」で日本文学に触れてみると、日本では自然に受け入れられている表現や感覚が、外国人研究者には理解が難しく、議論の種になることがありました。日本には独特の文学的伝統が形成されていることに気づき、探究心が刺激されたのです。

研究の柱は二つあります。一つは文学の存在意義を問うために、文学研究の軌跡をたどり、文学を取り巻く状況や文学が果たしてきた社会的役割を振り返る文学研究史を探究すること。もう一つは、文学を「外側」から包括的に研究して過去と現在を比較し、日本に息づく伝統の本質を究めることです。伝統の原初をたどると、古典文学、特に和歌の存在が大きいことが分かります。日本ではたたくさんの和歌や俳句が詠まれて、季語に託した感覚や思いを表現してきました。時代を越えて継承されてきた古典作品には、どの時代でも受け入れられる共感性が備わって

います。これらの累積により、伝統が形成されてきたのだと考えています。

しかし、感覚やイメージを根拠に結論を導いてしまうことには問題があります。例えば「日本の四季」です。和歌に始まった古典文学が、やがて季語を必須とする俳句文化を生み出したように、日本ではさまざまな事象を四季と結び付けて表現してきました。とはいえ、どの国にも等しく四季はあり、日本の四季だけが特別なわけではありません。四季への思いを日本独自の伝統と結論付けてしまうのは早計です。言葉の積み重ねで伝統が形成されているのであれば、その本質は理論的な言葉で説明できるはずですから、また、伝統は紡がれていくものではなく、古典作品だけに存在するものではないでしょう。海外と日本、過去と現在のように多面的に文学を比較しながら、日本文学の中に受け継がれてきた伝統の本質と向き合っています。

### 学生が学びたいと望む 学部横断プログラム実現に注力

法政大学には、学部横断で学ぶことのできる「サテライトプログラム」が用意されています。これまでにSDGs(持続可能な開発目標)、アーバンデザイン、ダイバーシティと3種類のコースが設けられていましたが、新



週1回、トレーナーの指導を受け、ジムでトレーニング。体力をつけ、コンディションを整えることで、精神的な集中力の持続につなげている



海外から日本文学を見つめ直そうと、日米教育交流を目的としたフルブライト奨学金を得て、米国コロンビア大学大学院に留学。写真は研修時の一枚



ゼミでは、学生たちの自主性に任せ多種多様なテーマを展開。「批判的思考」を大切に、興味のあるテーマに取り組む学生たちの笑顔は明るい

たに「自分たちが学びたいプログラムを学生自身が提案する」というコースの企画が始まり、副学長補佐という立場から携わるようになりました。今の学生がどのような問題意識を持ち、大学での学びに何を期待しているのかを目の当たりにしながら、準備に追われる日々を送っています。

公募を経て学生から提案されたテーマは「キャリア形成」「ファイナンス、資産形成」、さらに、「心身の健康とジェンダー問題」「災害と危機管理」「コミュニケーション能力向上」「自己表現」など、基本的な人間力を高められるような学びを求めていることがうかがえて興味深いです。

学部の枠を超えた学びの機会を得られるのは、総合大学という環境があればこそです。学生が望むプログラムを2023年春からスタートできるように、調整準備に取り組んでいます。

### 人と人との関わりの中で 育てていく「実践知」

ゼミ活動では自由なテーマで身近な文化についてディスカッションしていきますが、学生たちの潜在的な力、自主的に考える力には驚かされています。教員がリードして追隨させるよりも、学生の力を信じて見守り、問題の発見や課題解決のサポートをすることが大

事だと改めて気付かされています。その中で、意識的に伝えていくのは日常生活の中にある「当たり前」を疑うこと。常識だからと無条件に受け入れられるのではなく、批判的思考を大事にするように促しています。批判は否定とは違い、新たな視野を提示することです。批判によって意見が補強され、より良い結果を導くこともあるので、学生たちが互いに批判を受け入れることで、プラスの方向に視野を広げてほしいと考えています。

法政が育んでいる「実践知」は、自分のためだけではなく、人と人との関わりの中で役立ち、生かせる知です。若い世代の考え方を知り、理解することは「伝統の探究」という自分の研究にも還元されることなので、学生との関わりの中で、学生たちの「実践知」と自分自身の「実践知」を共に深め、結実を願って大事に育てていきたいと思っています。

### Kinugasa Masaaki

東京大学教養学部卒業、同大学大学院総合文化研究科比較文化比較文化専攻修士課程修了、コロンビア大学大学院東アジア言語文化学研究所博士課程へ留学、Master of Philosophy取得。東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻博士課程単位取得満期退学。日本学術振興会特別研究員などを経て、2001年に本学第一教養部専任講師として着任。2002年第一教養部助教授、2003年法学部助教授、2004年法学部教授、2007年より現職。国際比較文学会 (ICLA)、日本比較文学会所属。

**キ** ャンパス・エコロジー・フォーラムは「真面目なことをみんなで楽しく！」をモットーに、環境保全に注力するボランティアサークル。里山保全、棚田活動、大学祭のごみ管理を三本柱として、約2500人の部員が活動しています。

定期活動の一つは、茨城県土浦市宍塚にある里山保全活動。認定NPO法人「宍塚の自然と歴史の会」と協働して、東京から筑波山の麓まである広い里山の維持管理作業を月1回のペースでサポートしています。「活動内容は幅広く、外来生物の駆除から、土に日光を当てるための落ち葉かき、育ち過ぎた竹の伐採など、毎月バラエティーに富んだ作業を手掛けています」と語るのは松林さん。「作業後にはお楽しみもあり、伐採した竹の節に穴を開けて作った竹灯籠は、お気に入りのインテリアになりました」と笑顔を見せます。

棚田活動の拠点千葉県鴨川市の大山千枚田。「日本の棚田百選」の一つに選ばれるほど、階段状に375枚並んだ田圃風景が美しい棚田です。「棚田の一面を借り受け、田植えから収穫までの米づくりを実践しています」と語るのは大谷さん。「筋肉痛になることもあります。米づくりの楽しさを満喫しています。50キログラムほどの新米が収穫できるので、

**キャンパス・エコロジー・フォーラム**

**「真面目なことをみんなで楽しく！」環境の保全活動に注力**

**クラブ・サークル**

※今回はオンラインで取材しています

上段左から、大谷霞さん（人間環境学部人間環境学科3年）、逢田真友菜さん（キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年）、下段、松林倭太さん（キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年）



千葉県鴨川市の大山千枚田で5月の田植えを始める前の一枚。コロナ禍の影響で棚田活動は自粛していたため、3年ぶりに再始動できた喜びにあふれた



茨城県土浦市宍塚の里山での保全活動。2021年12月は子どもたちがケガをしないように落ちた枯れ葉や枝をかき集める「落ち葉かき」にそしんだ



市ヶ谷キャンパスの大学祭期間中はごみ回収用のエコステーションで活動。少しでも環境負荷を軽減するため参加団体が出す一般ごみの分別指導をしている

最後はライスパーティーを開催して、自分たちで作ったものを食べる喜びや達成感を味わっています」と目を輝かせます。

大学祭の期間中は、キャンパス内に複数箇所設置するエコステーションを管理。環境に悪影響なく楽しめるように、各団体から出たごみの回収と来場者へのごみの分別指導などを一手に引き受けています。

「活動ごとに班分けしてリーダーが統括していますが、メンバーは各自のペースで好きな活動に自由に参加しています」と語るのは逢田さん。コロナ禍で県境を越える移動に制限があった2021年度は、住居地域別にグループを分けた縮小活動を展開。「埼玉グループは長瀬を訪れて自然を楽しみました。なかなか会えない中でメンバー同士が交流できたのも、自分が住んでいる地域の魅力を再認識できたことも、感慨深い思い出です」と振り返ります。

前代の幹部としてサークルを率いてきた3人は、皆が楽しく安全に活動するには大人数をどうまとめればよいかを考えてきました。コロナ禍で試行錯誤してきた日々を「学生だからこそできた貴重な経験」と語り、「実践して得られた経験や知識をそのままにせず、次の世代に伝えて広げていきたい」と口をそろえます。

**水** と「コミュニティ」をテーマにした研究活動を展開する野田岳仁准教授。ゼミ。「地域住民の声を重視して、生活から環境問題やまちづくりを分析する『生活環境主義』の立場からリアリティーのある調査を心掛けて活動しています」と語るのは田中さん。「ゼミを通じて、世の中の風潮に振り回されず、自分がやりたいことを貫く強さをつかめた気がします」と語り、ゼミでの学びを自身の成長につなげています。「常識や理想を頭の中から排除して、住民の立場から考える力を付けてほしい」と語る野田准教授。ゼミの活動は、フィールドワークが中心です。2年度は文献などで基礎知識を学んだ後、現地調査を実施。3年度からは「水」をテーマに社会貢献活動を行うミツカン水の文化センターとの産学連携で、本格的な研究活動を展開しています。2022年度の調査地は神奈川県・真鶴町。夏季休暇期間は合宿で集中して調査を進め、現在も月1回のペースで現地を訪れて地域住民から話を聞いています。

「安定した水源がないという生活問題を抱えていたはずの真鶴に、近年若い移住者が増えている。この状況の実態を探るため、地元住民、移住者水の3班に分かれてそれぞれ調査しています」と語るのは山下さん。生活環境主義の研究活動に魅了され、も

**現代福祉学部福祉コミュニティ学科 野田岳仁准教授ゼミ**



**「生活環境主義」の立場からフィールドワークで現場の声に寄り添う**

**ゼミナール・研究室**

※今回はオンラインで取材しています

上段左から野田岳仁准教授、伊藤歌那さん（4年）、佐藤雅さん（4年）、下段左から田中珠李さん（4年）、山下友梨子さん（3年）、横井玲音さん（3年） ※全員、現代福祉学部福祉コミュニティ学科



2021年度は長野県松本市の公共井戸の利用と管理について調査し、松本市役所に政策提言した。ミツカンの若手社員もゼミに加わり研究活動を行っている



真鶴町での聞き取り調査の様子。移住者が地域に溶け込む社会的な仕掛けを分析し、移住者と地元住民が「社会的オヤ」の社会関係にあることを見いだした



2022年11月に真鶴町役場と町民に対して研究成果発表会を開催。大学連携により町民同士がつながり、水場の管理組織の強化など思わぬ効果もみられた

つと学びたいと大学院進学を視野に入れていきます。

「真鶴は『美の条例』と呼ばれる特徴的な条例を制定しています。その背景や、水源を管理している地区を調べて地域の特色をまとめています」と語るのは、水の調査を担当している横井さん。「住民視点に立つことで自分の視野の狭さに気付かされました」と、学びからの発見を自分の糧にしています。

4年度は卒論に向けての個人研究を進めています。1年度に東日本大震災の復興ボランティア活動に参加した佐藤さんが調査しているのは宮城県気仙沼市・大谷海岸。防潮堤建設計画が持ち上がる中、住民運動により町のシンボルである砂浜を復元させるに至った事例に着目しています。震災の怖さを知る住民たちが一致団結した理由などを探究したいと考えています」と語り、卒論の準備を進めます。

「地域に根付いた商店街が不思議とにぎわっていることに関心があり、商店街を仲介したまちの活性化をテーマに卒論をまとめています」と語るのは伊藤さん。「卒業後は公務員になるので、豊富なフィールドワークは貴重な経験でした。今後のキャリアに生かしていきたい」と自分の未来に期待を寄せます。



# THE SCENE

大学有数の歴史と実力を誇る、法政大学体育会。  
そんな伝統ある40体育会が日々活動しているワンシーンを、迫力あるカラーグラビアで紹介します。



## 剣道部

撮影場所：市ヶ谷総合体育館  
撮影：田中伸弥  
集合写真：剣道部提供

剣道部は創部104年を迎える、伝統ある部です。創部以来さまざまな実績を残し続け、各大会での優勝回数は全日本学生剣道優勝大会4回、全日本女子学生剣道優勝大会1回、全日本学生剣道選手権大会2回、全日本女子学生剣道選手権大会では4回です。部の目標である「日本一」からしばらく遠ざかっていましたが、2022年度は9年ぶりの関東学生剣道優勝大会入賞、7年ぶりの関東女子学生剣道優勝大会優勝、全日本女子学生剣道選手権大会二連覇と、目標を達成できるチームに仕上がりました。今後も日本一を目指して精進いたしますので、変わらぬご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

## Message

「自由を生き抜く実践知」を  
体現している  
学生の声を届けます。

## 学生が起こす「食」のイノベーション

多摩地域交流センター登録学生プロジェクト  
「Team Ethical by ホーセイイノベーションクラブ」代表  
社会学部社会政策科学科3年

Inoue Asuka

井上 あすかさん



大学近隣の地元野菜を使用した学食メニュー

「食」に興味があるメンバーによって結成されたTeam Ethical（チームエシカル）は、「地産地消の学食メニューの提供」「多摩キャンパスで地域野菜の八百屋を開く」「地産地消のお弁当を地域の高齢者の皆さんに届ける」という三つのプロジェクトを行っています。

食えることが大好きな私は「食」という分野に元々興味があり、大学ではアカデミックな視点から「食」に携わっています。しかし、学んでいく中で社会課題の要素として向き合う「食」と、自分の生活の中にある「食」に大きなギャップを感じるようになりました。

一人暮らしの中でコストの低い大量生産、大量消費のフードシステムに頼り救われている自分と、そうしたフードシステムが社会にもたらす悪影響を学んでいる自分。このギャップをどこかで埋めたいと考えました。

一学生の自分がいきなり社会全体のフードシステムを大きく変えることは難しいので、自分が関与して変えられるものとして、大学のフードシステムに注目したのです。

プロジェクトの企画運営をしている中で、学生だからこそできる「食」のイノベーションは、自分たちが通うキャンパスを素敵にしていることにつながると気付きました。プロジェクトはどれも大学と連携しながら、地域と学生が「食」を通してつながることを目的としています。チームエシカルのメンバーには、ヴィーガンの人もいれば、フードロ

スを少なくしたい人、地域のお野菜を食べたい人もいます。「食への向き合い方」に正解はありません。ただそうした視点を一つ持つだけで、ご飯を食べる毎日が少しだけ豊かになると思います。味わって食べる食事を重ねるほど、「食」への思いも深くなっていくからです。まずは、自分なりの向き合い方を探してみることが大切だと思います。

今後もチームエシカルの活動を通じて「食」との向き合い方を考えるきっかけを提供しながら、多摩キャンパスに素敵な要素を増やしていきたいです。



# 後援会だより

「子どもの母校は我が母校」  
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

後援会からのメッセージ

## 2023年を迎えるに当たって



後援会会長  
鯨岡 光男 (祐介/社会学部)



日頃から、後援会活動へのご理解ならびにご協力を賜り、誠にありがとうございます。この数年、世界中で猛威を振ってきた新型コロナウイルスが、大学生活を送る学生たちに多大な影響を与えたことは、言うまでもありません。そして後援会活動自体もその影響を大きく受け、自粛や制限をせざるを得ない状況となりました。この間は、困窮するご家庭や学生への経済的支援、大学による新型コロナウイルススワクチン接種への補助などを実施しました。一方で、全国の会員相互の親睦を図る「新人生父母の集い」や「父母懇談会」、そして「支部長会議」などは、中止またはオンラインでの開催や出席者人数の制限など、厳しい制約・条件下での実施を余儀なくされる状況が続いておりました。

2022年度の後援会活動は、こうした状況の中でスタートしました。コロナ禍の環境に改善の光が見

え始めていたことから、ウイズコロナ下で学びを継続している学生のために、そして全国の会員間の交流を継続・発展させていくためにも、従来の活動を少しずつ再開させていくことを決定しました。

全国35の支部で行われる支部総会ならびに父母懇談会では、原則対面式での開催をお願いしました。また、それらの会合に実に3年ぶりに後援会首都圏役員も参加させていただき、支部の皆さまと直接お会いすることのできる喜びを改めて実感しました。

さらに、市ヶ谷・多摩・小金井の3キャンパスでは、一定の条件下ではありましたが、キャンパス見学ツアーを実施しました。東京六大学野球では、秋季リーグ戦から応援活動を再開させることができました。全国の会員の方々が一堂に会して、「我が母校」法政大学の野球部の応援を実施できたのも、本当にうれしい限りでした。



後援会活動をコロナ禍以前のよう  
に制限なく行えるようになるかどう  
かは、まだまだ予断を許さない状況  
です。しかしながら、諸先輩方がこ  
れまで守り続けてきた76年の伝統を  
受け継ぐとともに、コロナ禍で体験  
した厳しい危機経験を今後にかし  
ていくことで、2023年以降も全  
国の会員の皆さまと一緒に良い  
後援会活動を実現していきたいと思  
います。

一日も早く安心して暮らせる日常  
が戻るよう、また会員の皆さまに  
とって2023年が幸多き年となり  
ますよう祈念申し上げます。

後援会からのレポート

## 支部長会議報告



後援会総務  
小出 由起子 (健文/理工学部)



2022年度の支部長会議を11月12日(土)に市ヶ谷キャンパスのボアナード・タワー26階「スカイホール」にて開催しました。今回は来場(57人)とオンライン参加(19人)のハイブリッド形式で開催し、新たに会計に関する個別相談も実施しました。

廣瀬克哉総長に大学の近況についてお話しいただいた後、後援会連携室の「これからの法政大学後援会支部について」と題する講演で、後援会の生い立ちや支部発足の流れ、コロナ禍の影響、現在の支部の状況や課題などをお話しいただきました。

その内容を踏まえて参加者が7グループに分かれ、①今年度の父母懇談会、②支部独自の活動、③支部運営で困っている点や他支部に聞いてみたいことの3テーマでグループディスカッションを行いました。

テーマ①では、対面やオンライン併用、そして新たなブロック開催により、3年ぶりに大学の理事や学部

長、キャリアセンター職員、そして後援会本部役員の来場がかない、懇談が行えてとても良かったという意見が多数ありました。また、単独開催の難しい支部からは、ブロック開催で負担が軽減されたという声が聞かれました。

テーマ②では、スポーツ応援や、地域イベントに参加する学生団体の応援を行っている支部の報告がありました。また、東京六大学野球応援やキャンパスツアーを再開した支部が多く、参加者に大変好評とのことでした。

テーマ③では、「コロナ禍で支部活動がストップしていたため、活動経験のない前年度役員から書面だけの引き継ぎとなり、今年度の活動では苦勞した」「支部長や会計の負担が大きい」「新役員の選出がとても大変」などが挙げられました。役員選出の対策として、支部の



冒頭の廣瀬総長からのお話



グループディスカッションの様子

案内状に役員のコメンツを掲載してアピールしているという報告もありました。支部によって会員数や課題は異なりますが、さまざまな意見を聞くことができ、大変有意義な時間となりました。

本部からの統括にもあったとおり、今後も皆さまのご協力の下、本部・支部が協力し合い、後援会の言葉「子どもの母校は我が母校」の精神で活動に取り組んでいきたいと思いをします。

最後になりましたが、支部長会議開催に当たり、廣瀬総長をはじめ多くの大学関係者の皆さまにご協力いただきましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。

# 2022年 写真で振り返る後援会



4月3日  
入学式

4月16日  
東京六大学野球応援(対立教大学戦)

5月21日  
新幹事予定者説明会

6月11日  
第1回常任幹事会

6月12日  
新入生父母の集い(静岡支部)

6月25日  
役員研修会

7月24日  
支部総会・父母懇談会(長野県支部)

10月2日  
首都圏父母懇談会(市ヶ谷キャンパス)

11月12日  
支部長会議

## 総長・学内理事と後援会との懇談会

2022年11月24日(木)、市ヶ谷キャンパス九段校舎において、総長・学内理事と後援会運営委員との懇談会が行われました。後援会ウェブサイトにも懇談会の報告記事を掲載しておりますので、ご覧ください。

後援会ウェブサイト  
<https://www.hosei-koenkai.org/>



## 関西支部からのレポート

# キャンパスツアー&スポーツ応援



関西支部支部長  
灰田 カンナ (小梅/スポーツ健康学部)



2022年10月8日(土)、私たちにとって初めてのキャンパスツアー&東京六大学野球応援とあって、緊張とうれしさで予定時間より早く神宮球場に集合。本部役員の方から、応援スタイルなどをご指導いただき、三塁側内野席で試合を応援しました。

野球部員の健闘ももちろんですが、応援団のリーダー部、チアリーダー部、吹奏楽部の皆さんも素晴らしい、振りや手拍子などの一つ一つ、音の一つ一つ、体全体に力と魂を込めて、本当に頑張っている姿に感激。対戦相手の慶應義塾大学とのエール交換では、慶應からの心の込められたエールに目頭と胸が熱くなりました。試合結果は残念でしたが、たくさんの方から、感動をもらえました。

野球応援後は市ヶ谷キャンパスへ。株式会社エイチ・ユーの方のご案内で、外濠・富士見坂・富士見ゲート・大内山の各校舎、図書館、ボアナード・タワーなどを見学。各校舎や構内にわが子の姿を重ねて、こころでも感無量。見学中、皆さんのスマー

トフォンのシャッター音がやむことはありませんでした。ツアー後は、一口坂校舎の販売コーナーで、それぞれ法政グッズを購入しました。宿泊した参加者は、翌日、多摩キャンパスで開催された男子ラクロス関東学生リーグの1部・2部入れ替え戦の応援に。

試合は、第1クォーターに先制した青山学院大学の優勢で進行。追いつけそうで追いつけないもどかしい展開。最終第4クォーター開始時のスコアは4対5、法政側は攻め込まれ続け、私たちは諦め……。でも選手たちは不撓不屈！ デイフェンス陣からキャプテンにボールが渡り、キャプテンがチームメイトを見据えて「行くぞ」と気概を送った(ように見えた)そこから！ 仲間の力を信じ、残り時間わずか反撃開始！

1点また1点。必死で声援をこらえていた私たちは、跳び上がりつ放し。終わってみれば9対5の逆転勝利で、前日に続き、チームブレイの素晴らしさに感動した一日でした。



逆転勝利をつかんだ男子ラクロス部



東京六大学野球を応援した神宮球場前で

※男子ラクロス部はその後勝ち続け、11月5日(土)の入れ替え戦に勝利して、3年ぶりの1部リーグ復帰を遂げています。



HOSEIミュージアム  
HOSEI UNIVERSITY MUSEUM

能楽の国際・学際的研究拠点  
野上記念法政大学能楽研究所

対話する

「伝統」と「現代」

野上記念法政大学能楽研究所（以下、能楽研究所）は創立以来70年間にわたり、研究の基礎となる能楽資料の収集と整備・公開に努めてきました。蔵書の中には、重要文化財指定の室町期謡本や世阿弥伝書など、極めて貴重な資料も多数あります。

こうした豊富な所蔵資料を公開し、幅広い分野の研究に役立てるとともに、国際的・学際的な研究ネットワークの拡大を図ることを目的として、2013年、能楽研究所は文部科学省の共同利用・共同研究拠点の認定を受けました。「能楽の国際・学際的研究拠点」としての活動は、今年で10年目となります。そこで、この10年の歩みを振り返るとともに、650年の伝統を誇る能楽が、現代の社会とどのように結び付くことができる

のか、展示を通して考えてみたいと思います。

活動の中には、古い伝書記事の内容を現代にのみがえらせる試みもあります。2018年には本学鴻山文庫の『観世流作物之図』（九条家旧蔵、寛政9年、写真1左）を参考に、特殊な仕掛けの酒壺を制作しました。演目「大瓶狸々」で舞台上に据え置かれる「作り物」で、蓋を開けると酒の波が飛び出す仕掛けによって、いくら飲んでも酒が湧いてくる不思議な酒壺を表しています。ばねに用いたのは鯨のひげで、江戸時代からくり人形などにも使われていました。現在では入手が難しい貴重品ですが、能楽研究所と親交の深い狂言師の方がたまたまお持ちで、それを利用して制作していただきました。また、江戸時代の図面を基に、

CGによって当時の能舞台や客席など、上演空間を再現する研究にも協力しました（写真2）。これは、本学デザイン工学部建築学科との学際研究です。現在は、音響情報処理の技術を使い、能の謡をコンピュータによって分析する研究も進められています。

能楽は日本の古典芸能であるだけでなく、現在も世界の演劇の重要な一部を成す、現役の舞台芸術です。この10年間、国際的な共同研究を重ね、世界の演劇研究者や実演者の参照基準となるように、最新の学説も盛り込んだ英語版の事典の編纂にも取り組んでいます。今回の展示では、能楽の国際・学際的研究拠点としての10年間の歩みや、2023年の刊行に向けた英語版事典の最終段階の様子をご覧ください。



#### HOSEIミュージアム テーマ展示

##### 能の「伝統」と「現代」

期間：2023年2月17日～4月26日  
場所：市ヶ谷キャンパス九段北校舎1階  
詳細：HOSEIミュージアムウェブサイト



- 1 左の『観世流作物之図』を参考に、右の酒壺を制作した。写真は、蓋を開けて酒の波が飛び出した状態
- 2 図面を基にCGで再現した、寛永（1624～1644年）頃の江戸城二の丸の能舞台
- 3 チェコ語で狂言を演じ、その魅力を広く伝えている団体「なごみ狂言会チェコ」。能楽研究所の特別企画として、茂山家と共に東京公演を行った（2016年7月）

## 校友会だより

一般社団法人法政大学校友会（以下、校友会）は、「法政ネットワーク」強化を目的に、校友会憲章に謳っている「価値の創生・共創」を基本理念に、大学、後援会と手を携えて三位一体で諸事業を推進してまいります。



式典の様子、当日は3年ぶりの開催に対して、様々な方からお祝いの言葉が述べられました



流鏝馬演武では、馬を模した乗り物にまたがって壇上の的を狙う実演を披露していただきました

### 第28回法政大学全国卒業生の集い 3年ぶりの「栃木大会」に450人超が参加

2022年11月4日（金）～6日（日）に開催した第28回法政大学全国卒業生の集い「栃木大会」に、全国から450人以上の校友が参加しました。この集いは1986年の新潟大会から始まり、各県持ち回りで毎年開催しています。今回は、コロナ禍により二度延期され、3年ぶりの開催となりました。

#### 栃木色に包まれて 校友同士の親睦を深める

メインイベントの式典は、11月5日

（土）にホテル東日本宇都宮で開催しました。竹中宣雄校友会会長や寺内正毅栃木大会実行委員長など主催者と来賓のあいさつに続き、株式会社バン・アキモトの秋元義彦社長（栃木県校友会副会長）が記念講演をされました。特別公演の日光東照宮による流鏝馬演武では、射手全員が壇上の3枚全てを的中。古河電気工業株式会社日光事業所舞楽部による日光和楽踊りでは、会場が一体となって踊りました。

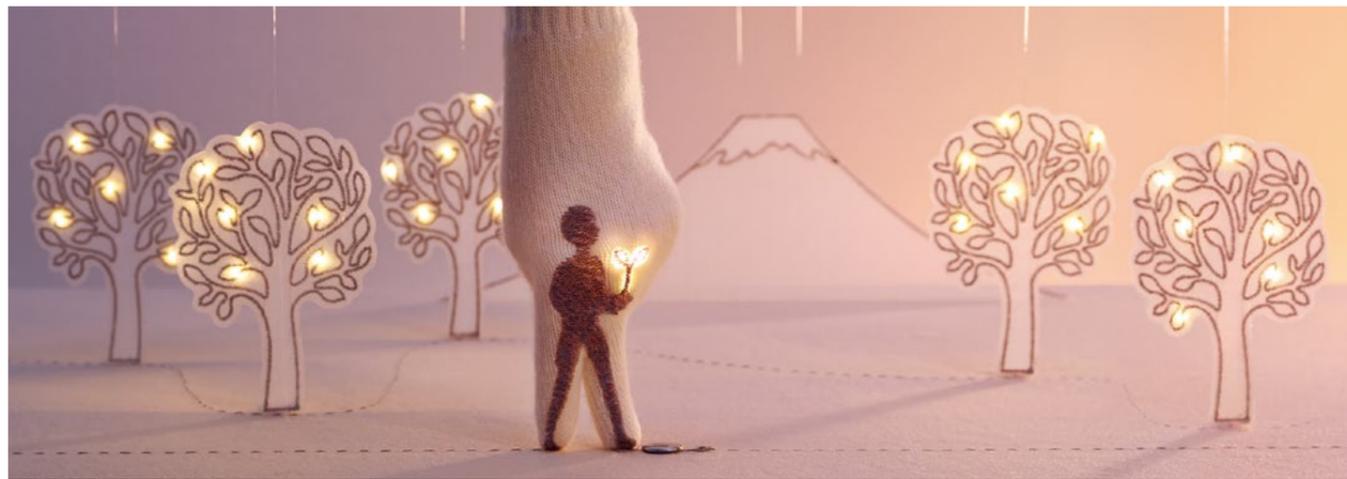
懇親会には菅義偉前内閣総理大臣も参加され、大学での経験や、多数の卒業生からの支援のおかげで内閣総理大臣を務めることができたこと、感謝の言葉を述べられました。参加者は、ジャズの街・宇都宮で活躍するビッグバンド「スウィング・ハード・オーケストラ」の演奏や法政大学応援団の力強い演舞などを楽しみながら歓談し、親睦を深めました。最後は応援団主導の下、参加者全員で校歌を斉唱し（マスク着用）、校友同士の絆をさらに深めて、式典の幕を閉じました。

式典前日の11月4日（金）には、那須ゴルフ倶楽部で約60人がプレーを楽しみ、式典翌日の6日（日）には、世界遺産を有する国際観光都市・日光をバスで観光。参加者は紅葉に染まる秋の日光を楽しみ、思い出を胸に帰途に就きました。

#### 第29回法政大学全国卒業生の集い

「倉敷大会」（岡山県倉敷市）  
2023年11月3日（金・祝）～5日（日）予定  
卒業生の皆さまのご参加をお待ちしています

一般社団法人 法政大学校友会事務局 Tel 03-3264-1831 Eメール info@hoseinet.or.jp ウェブサイト https://hoseinet.or.jp/



## 私たちがつなぐもの

それは、だれかの安心、だれかの笑顔、だれかの願いだから、  
あたりまえの日常を、ささえつづけるために  
つなごう、想いを、明日を。

ひとりひとりが、未来を灯す。

# KANDENKO

〒108-8533 東京都港区芝浦4丁目8番33号 <https://www.kandenko.co.jp/>

祝8 大会連続出場



学生も保護者も卒業生も。オール法政みんなで応援。

# お正月はみんなで応援！ 走れオレンジエクスプレス

第99回箱根駅伝 2023年1月2日、3日 AM 8:00 Start

応援イベントに関する詳しい内容は、こちらから。  
法政スポーツインフォメーション (<http://hosei-sports.jp/>)



BX

文化シャッター



文化シャッターグループは、社会環境に主体的に対応し、  
未来志向で事業の発展に取り組む、  
快適環境のソリューショングループをめざしています。  
人、社会、技術、自然が共存する環境づくり、  
広く社会の発展に寄与する製品・サービスの創出に取り組みます。

### Products

■製品



スマホで操作できるシャッター  
や水害を防ぐ止水製品など、幅  
広いニーズに応えています。

### Development

■技術開発



基礎技術の研究から製品の評  
価・検証まで、生活者視点の技  
術開発を行っています。

### After Service

■アフターサービス



事故や故障を未然に防ぐため、  
24時間365日の保守・点検  
サービスを行っています。

### Social Activities

■環境・社会



太陽光発電の利用やLED照明  
設備など、生産工程の脱炭素・  
省エネ化を推進しています。

文化シャッター株式会社

〒113-8535 東京都文京区西片1丁目17-3 TEL.03-5844-7200 ホームページ <https://www.bunka-s.co.jp>

# 法政財界人倶楽部

会長 村田紀敏 (昭和41年卒)

## 母校法政大学を応援します!

当倶楽部は、平成5年(1993年)10月に

1. 母校法政大学の発展に協力し奉仕することを主旨とする。
  2. 母校法政大学の出身者として広く校友会活動を通じて社会発展に寄与する。
- を主な綱領に法政大学出身者の経済人(上場企業の役員)を構成員に設立されました。

## 新しい会員の参加を募集中です!

加入資格: 上場企業の「役員・執行役員」と「部長職・課長職等の管理職」  
【法政財界人倶楽部事務局】までお申込みのご連絡をお願い致します。

会員数(2022年11月現在)

上場企業の【役員・執行役員】260人 【部長職・課長職】142人

## 法政財界人倶楽部 役員

2022年11月現在

財界人役員	氏名	会社名	役職
会長	村田紀敏	(株)セブン&アイ・ホールディングス	元代表取締役社長
副会長	山口学	(株)関電工	元取締役会長
副会長	田邊光雄	信金中央金庫	相談役
副会長	竹中宣雄	ミサワホーム(株)	取締役
副会長	堰八義博	(株)北海道銀行	特別顧問
副会長	瀧澤利一	(株)バルカー	代表取締役会長CEO
副会長(事務局長)	佐々木郁夫	(株)日本共同システム	代表取締役会長(元明治安田生命専務)
常任理事	宮嶋宏幸	(株)ビックカメラ	元副会長
常任理事	浅野紀美夫	プラス(株)	代表取締役副社長
常任理事	池谷文雄	日本生命保険(相)	顧問
常任理事	市村尚裕	東京きらぼしリース(株)	取締役副社長
常任理事	犬塚勇	山崎製パン(株)	専務取締役
常任理事	岩下周三	(株)フジタ	顧問
常任理事	潮崎敏彦	文化シャッター(株)	代表取締役社長
常任理事	鈴木和夫	ライト工業(株)	取締役会長
常任理事	武澤雅吉	トビー工業(株)	専務取締役
常任理事	長裕章	(株)ジェーシービー	代表取締役兼専務執行役員
常任理事	皆見薫	公益社団法人日本観光振興協会	常務理事
常任理事	中島圭一	シチズンマシナリー(株)	代表取締役社長
常任理事	長島康雄	東海運(株)	代表取締役社長
常任理事	三浦善功	日清食品(株)	元代表取締役会長
常任理事	山下勝征	(株)ハウスイ	元取締役副社長執行役員
常任理事	山本雄一郎	(株)タチエス	代表取締役社長
監事	木嶋伸一	トビー工業(株)	取締役副社長

## 事務局

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-11-18 711ビル8階 株式会社日本共同システム内

担当 齋藤(サイトウ) TEL 03-3369-0804  
道山(ミチヤマ) FAX 03-3369-1990  
矢賀部(ヤカベ) MAIL hosei.hzi@nks-inc.jp

水力発電・送変電設備のプロとして  
共に豊かな社会を支えよう

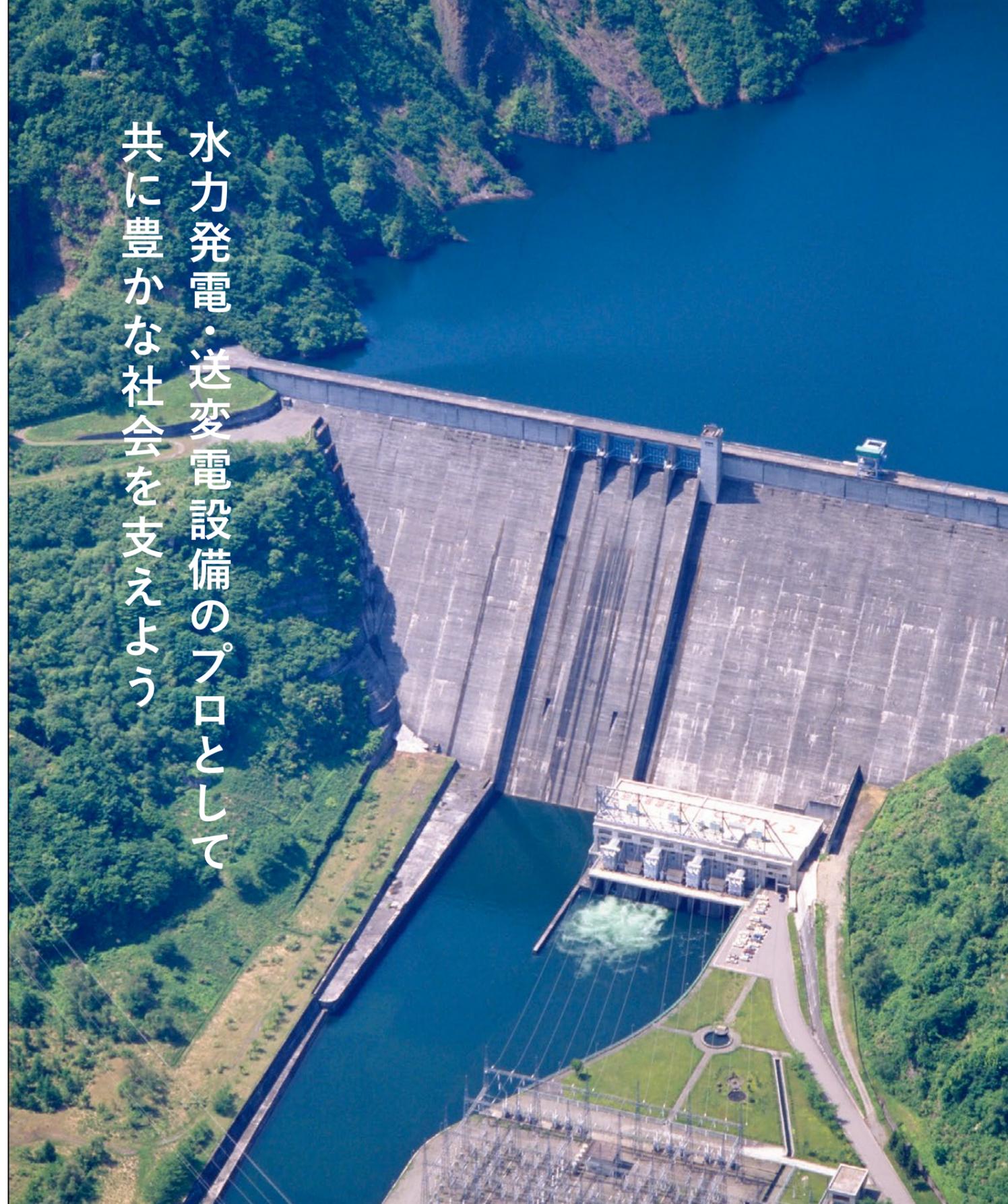


写真: J-POWER 田子倉発電所(福島県)

**J-POWER** 株式会社J-POWERハイテック  
本店所在地: 東京都千代田区九段北4丁目2番5号(共益市ヶ谷ビル) <http://www.jphytec.co.jp/index.html>

技術系・事務系の皆様のエントリーをお待ちしております!

電話: 03-3237-2323 E-mail: [saiyou@jphytec.co.jp](mailto:saiyou@jphytec.co.jp)



【採用HP】



【各職種紹介動画はこちらから】

## 課外教養プログラム「東京ジャーミイに行く！～日本におけるイスラム・モスク～」開催

11月12日(土)、課外教養プログラム「東京ジャーミイに行く！～日本におけるイスラム・モスク～」が開催されました。

当日は、イスラム文化になじみのない初心者でも楽しめるプログラム構成で、午前中には、イスラム信仰の基礎や日本とイスラムの関係史などの事前講義が催され、午後は代々木上原にある「東京ジャーミイ」でモスク見学が行われました。モスク内では偶然、結婚式が執り行われており、あまり見ることができないイスラム式の結婚式も見学することができました。

普段は学ぶ機会が少ないイスラム文化に触れ、異文化について理解を深める体験ができた1日となりました。

## 第105回日本細菌学会関東支部総会で生命科学部の学生が優秀発表賞を受賞

10月22日(土)にオンラインで開催された「第105回日本細菌学会関東支部総会」で、川端美希子さん(生命科学部4年)が優秀発表賞を受賞しました。

世界三大感染症の一つである結核の治療において、現在大きな問題となっているのが、複数の抗菌薬が効かない「多剤耐性結核菌」の出現です。受賞演題(口頭発表)「結核菌異物排出系複合体コンポーネント間の相互作用」は、薬剤排出系の構成タンパク質が複合体を形成し、菌体表層の何らかの成分に固定されて機能することを示した研究で、多剤耐性化のメカニズム解明に向けた一歩と考えられています。

## デザイン工学研究科の学生4人が令和4年度土木学会全国大会優秀講演者を受賞

10月17日(月)、デザイン工学研究科社会空間情報研究室(指導教員:今井龍一教授)に属する4人の学生が「令和4年度土木学会全国大会 第77回年次学術講演会」で優秀講演者を受賞しました。

受賞者は山本忍さん、難波尚樹さん(ともに修士課程2年)、野村圭哉さん(修士課程1年)、そして投稿当時は修士課程2年で現在は株式会社建設技術研究所に勤める中村啓人さんです。

## 岩淵麗楽選手がスノーボードのワールドカップ(W杯)で優勝

10月22日(土)にスイス・クールで開かれた今季ワールドカップ開幕戦となるスノーボード・ビッグエアで、岩淵麗楽選手(スポーツ健康学部3年)が優勝しました。大技を決めた岩淵選手は180.75点を記録。2021年12月以来となる、通算8勝目を飾りました。

岩淵選手は「オリンピック後、けが後に出る初めての大会で、競技に向き合うのが少し怖いような緊張感がありつつ臨みました。思っていた以上に自分の滑りに集中できて、プレッシャーを感じる中でも優勝という結果をつかみ取れてうれしく思います。今後も大会は続いていくので、気を抜かず引き続き頑張っていきたいと思っております」と喜びを語りました。岩淵選手の今後の活躍にぜひご注目ください。



(写真:本人提供)

## 八王子市市制施行記念式典で表彰を受けました

2021年8月から10月にかけて八王子市の新型コロナウイルスワクチン接種会場として多摩キャンパスを貸し出し、多くの市民の方々が利用されました。

このたび、キャンパスを無償で貸し出したことが八王子市への寄付に該当するとの理由から、八王子市市制施行記念式典内で表彰されることになり、10月21日(金)、八王子市健康医療部新型コロナウイルスワクチン接種調整担当課長(八王子市保健所)が来校され、本学多摩事務部長が代表して表彰状を受け取りました。

多摩キャンパスは「地域に開かれたキャンパス」として、これからも地域の皆さまへ貢献できるよう取り組んでいきます。



## 法政科学技術フォーラム2022を開催

11月3日(木・祝)、理系学部および研究所における研究や技術の成果を紹介する「法政科学技術フォーラム2022」を対面およびオンラインで同時開催しました。

当日は、米国電気電子学会(IEEE)やヨーロッパ連合アンテナ伝播機構(EurAAP)など数々の機関から表彰された中野久松名誉教授の特別講演を行い、理系学部・研究所に所属する17人の教員が自身の研究内容と成果を紹介、理系学部・研究所に所属する13研究室、3研究所のポスターセッションも実施されました。

研究室紹介、特別講演の一部については「法政科学技術フォーラム2022」の特設サイトで配信しています。



法政科学技術フォーラム2022特設サイト

## 経営学部の学生とZOZOTOWNが企画・制作したコラボスウェットが期間限定販売

経営学部西川英彦教授ゼミの学生が企画・制作に携ったカレッジロゴスウェットが10月21日(金)から11月4日(金)の期間限定で、受注販売されました。

米国の大学のロゴスウェットを多数製作しているブランド「Russell Athletic」のスウェットを使用し、「日本版」のカレッジロゴスウェットを各大学から販売するという企画の一環で、4つの私立大学とZOZOTOWNがコラボレーションしたものです。王道のカレッジロゴデザインと大学のエンブレムをプリントしたスウェット(グレー・ブルー)と、法政大学ゆかりのポアソナード博士をイラストにしたスウェット(グレー・オレンジ)の2タイプ、各2色が販売されました。



## 入試期間中の卒業生証明書発行について

入試期間中は入構制限があるため、期間中に各種証明書が必要な方は郵送で申請していただくか、「卒業生証明書オンライン申込システム」をご利用ください。



※オンライン申し込みの対象は、通学課程および通信教育課程の在学学生・卒業生です。別途所定のシステム利用料が発生します。  
※現在新型コロナウイルスの影響で通学課程の在学学生についても本機能を解放しています。  
※オンライン申し込みにより発行できない証明書があります。詳しくは、在学生の方はHoppii掲載の案内を参照してください。卒業生の方は、大学ウェブサイトの「卒業生の方へ」から「証明書の種類と料金」を参照してください。

## 図書館の春季休館について

各キャンパスの図書館は、蔵書点検などのため2023年3月6日(月)～10日(金)まで休館の予定です。また、1月19日(木)～3月31日(金)に春季長期貸し出しを行います。返却は4月14日(金)まで(卒業・修了予定者は3月24日(金)まで)です。詳しくは図書館のウェブサイトでご確認ください。



## 〈卒業後50年を迎える皆さまへ〉 2023年9月に 記念行事を実施します

法政大学では、卒業後50年を迎えるご卒業生の皆さまの記念行事を実施いたします。

内 容：記念講演会(予定)  
実施時期：2023年9月上旬頃  
参加方法：対面形式(市ヶ谷キャンパス)  
または オンライン形式

本行事は入学式へのご招待に代わる行事として実施いたします。

対象となる方は「1969・1970・1971・1972年度卒業」の皆さまです。

記念行事の詳細については、対象となる卒業生の皆さま(大学で住所を把握している方)に、4月頃にご案内を送付いたします。

参加申込方法についてはご案内でお知らせいたします。

【お問い合わせ先】法政大学卒業生・後援会連携室  
TEL：03-3264-9230  
E-mail：koyu@hosei.ac.jp

## 日本学生支援機構奨学金 継続手続きに関するお知らせ

### 1. 継続手続きについて

奨学金の貸与および給付を受けている方(2023年3月満期者を除く)は継続手続きが必須です。

日本学生支援機構スカラネット・パーソナルから継続願をウェブ入力してください。

詳細はHoppiiのウェブ掲示板「その他のお知らせ」に掲載している書類をご確認ください。法政大学のウェブサイトにも概要を掲載しています。

入力期限:2023年1月15日(日)

2023年4月以降の奨学金継続を希望しない場合も、「希望しない」との回答をウェブ入力・送信する必要があります。

### 2. 2023年4月以降の振り込み開始日

継続許可者の2023年度初回の奨学金振込日は2023年4月21日(金)の予定です。継続許可の通知などはありません。通帳記帳などにより入金を確認してください。

### 3. お問い合わせ先(電話番号)

【市ヶ谷キャンパス】厚生課 03-3264-9486  
【多摩キャンパス】多摩学生生活課 042-783-2151  
【小金井キャンパス】小金井学生生活課 042-387-6011

## 2022年度卒業・進級発表について

2022年度の卒業・進級発表は、2023年2月末以降に情報システムを通じて行います。発表日や詳細については、各学部のウェブサイトでご確認ください。

## 第141回学位授与式のお知らせ



(写真は2022年撮影)

第141回学位授与式(卒業式)を、2023年3月24日(金)の午前の部と午後の部の2回に分けて、日本武道館で行う予定です。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、式典への入場は学生1人につき付添者1人までに制限させていただきます。

入場できない方のために、式典の模様をパソコンやスマートフォンなどでご覧いただけるようインターネット中継します。詳細は大学ウェブサイトでご確認ください。

※新型コロナウイルス感染症の状況によって式典を中止とする場合があります。



学位授与式のお知らせ

本学専任教職員の最近の著書、編纂書、訳書をご紹介します。

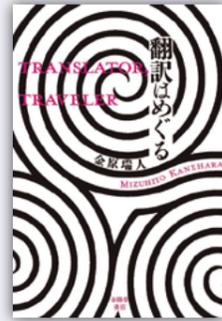
# BOOKS



## 民法5 契約

ラテン語で情熱や勉学を意味するストゥディア・シリーズの民法第5巻。初めて契約法を学習する読者へ向けて、根幹を分かりやすく伝えることを追求した。「契約法とは」から、「組合・和解・終身定期金」までの15章で構成され、図表や事例を豊富に用い、論理のステップを丁寧に踏んで説明している。

大澤 彩 他2名 著  
法学部法律学科 教授  
出版社：有斐閣  
発行：2022年9月



## 翻訳はめぐる

翻訳家兼大学教員として40年、600冊を超える翻訳書を手掛けた著者が「言葉」を考えるエッセー集。翻訳に始まり、英語、日本語、表記、古辞書、サリンジャーまで、さまざまなテーマについて語り、言葉と文字の当たり前や思い込みを問い直している。

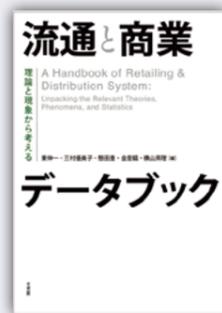
金原 瑞人 著  
社会学部社会学科 教授  
出版社：春陽堂書店  
発行：2022年8月



## 博物館とコレクション管理

博物館が独自のコレクションを生かしていくための手引き書。国内外の博物館が実践しているコレクション管理の事例を踏まえながら、「収集・整理保管」「公開・活用」「処分」など、ポスト・コロナ時代のコレクション管理のあり方を考察した。2022年4月に成立した「博物館法の一部を改正する法律」（改正博物館法）の内容に準拠している。

金山 喜昭 編  
キャリアデザイン学部  
キャリアデザイン学科 教授  
出版社：雄山閣  
発行：2022年6月



## 流通と商業 データブック

現代の流通・商業を深く理解するために欠かせない概念や用語について、理論、データ、資料を駆使して総合的に解説したハンドブック。用語は約150のテーマに分類し、体系的に整理して解説している。学習者から研究者、実務に携わるビジネスパーソンまでを対象とした一冊。

横山 斉理 他4名 編  
経営学部市場経営学科 教授  
出版社：有斐閣  
発行：2022年9月

※日外アソシエーツ 図書内容情報BookPlusを参照

## HOSEI 1・2月号

令和5年1月1日発行  
第50巻第1号（通巻736号）

発行 法政大学 総長室 広報課  
〒102-8160  
東京都千代田区富士見2-17-1  
TEL.03-3264-9240

協力 法政大学後援会

企画・制作協力 (株)日経BPコンサルティング

印刷所 図書印刷(株)



## 法政大学生協同組合書籍部より

### 長期休みに小説を手にとってみませんか

秋学期授業期間もいよいよ後半に差し掛かり、年末年始のお休みや春休みが見えてくる頃かと思えます。この長期の休みを利用して小説などを1冊手に取ってみませんか。小説にはさまざまなジャンルがありますが、いずれもご自身を違う世界にいざなってくれます。普段あまり小説を読まない方も、忙しくて本を読む時間のない方も、少しだけ時間をつくってページを開いてみてください。ご自身に合ったジャンルなら思いの外没頭してしまうかもしれません。そうでなくても、きっと良い気分転換ができると思います。

本は心を豊かにするとよくいわれます。時間が取れるこの機会に小説などいかがでしょうか。生協では組合員証提示で定価の10%引きでご購入いただけます。(生協購買書籍部)



# 付属校短信



## 法政大学中学高等学校

### 保護者を招いて鈴掛祭を実施しました

2022年9月25日(日)、26日(月)の2日間、鈴掛祭(文化祭)を実施しました。コロナ禍での動画を教室にて鑑賞する形態から、中高共に各教室で行われる企画を見て回るスタイルの文化祭へと発展。各家庭からは保護者1人を入場可能としました。以前の鈴掛祭を意識しながらも、コロナ禍での新たなスタイルを追求した取り組みになりました。

中学・高校の各実行委員長からは以下

のコメントが寄せられました。「今回の鈴掛祭はこれまでよりも制限が大きく緩和されて自由度が増えた分、決定事項が増えて混乱もありました。しかし、苦難を乗り越え迎えた当日は本当に素晴らしく、一人一人が楽しんでいました(中学)。「文化祭を見て感動したのは、ルールの中で楽しんでいる生徒の姿です。決められた枠組みの中で、自らの発想を生かしたクラス企画や有志企画がたくさん生まれ、



とても素晴らしい文化祭ができました(高校)。

これからの鈴掛祭につながる新たな1ページを、生徒自身の力で主体的につくり上げることができました。



## 法政大学第二中・高等学校

### 中学3年生の研修旅行を実施

2学期がスタートし、中学3年生では9月5日(月)から4泊5日で広島研修旅行を実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度は中止、2021年度は日程変更や活動内容を縮小した形で行いましたが、2022年度は計画通りに実施することができました。

広島研修旅行は「総合」の授業の一環であり、大きな目標の一つが平和学習です。初日、2日目は被爆された方の体験談や

広島市内のさまざまな記念碑を巡る中での「追体験」、地元の平和ガイドの方を交えてのワークショップなどを実施。生徒は原爆の悲惨さを知り、平和に対する認識を深めました。班単位のフィールドワークでは、各班で設定したテーマの調査、研究を行い、2023年2月に予定している発表の準備を進めました。3日目以降はトレッキングや、しまなみ海道サイクリング、厳島神社の散策など、広島 naturally 文化・



歴史と触れ合いました。

この5日間の研修旅行の経験が、生徒たちの今後の学校生活だけでなく、将来にわたって意義あるものになってほしいと思います。



## 法政大学国際高等学校

### 生徒が躍動する学校活動

2022年度は、感染対策をしながらもリアルな活動が戻ってきています。学校を閉鎖せず、登校を制限せず、授業や行事などの諸活動ができており、構内は多くの生徒でにぎわっています。

6月の「宇宙一」の体育祭では躍動する姿が見られ、9月には3年ぶりの対面開催でのオレンジ祭(文化祭)が復活しました。3年生も初めてのリアル・オレンジ祭で、入場者の電子チケット配信や、混雑度を

測る取り組みなど、コロナによる制約を前提とした新しいデジタルの試みも実行しました。2年の空白後、前例がなく一直線に進まない中で、自由な発想から生じたさまざまなことが、関わった生徒に大きなものを残したように思います。

生徒の躍動は行事だけではありません。国際高図書室では、新たに電子図書館と3次元(3D)プリンターを導入しました。授業と連動した利用や図書委員会の活動



も活発です。単位制による時間割の空き時間には、多くの生徒が図書室で自習や読書、文献調査、休憩をしています。静かな図書室にも熱を感じさせる生徒の活動があります。



# 体育会の活躍

## 試合結果

2022年4月1日～2022年10月31日

### スケート部

[10月]

ISUグランプリシリーズ第2戦カナダ大会に初出場した渡辺侑果選手(通教経済学部2年)が優勝



渡辺選手 (写真提供: スポーツ法政新聞会)

### ソフトテニス部

[10月]

令和4年度関東学生ソフトテニス秋季リーグ戦にて男子チームが全勝で25年ぶりに優勝



(写真提供: ソフトテニス部)

### 野球部

[10月]

2022年プロ野球ドラフト会議にて、埼玉西武ライオンズの育成4位で是澤涼輔選手(現代福祉学部4年)、オリックス・バファローズの育成5位で村上喬一朗選手(法学部4年)が指名



左から、村上選手、是澤選手

### 準硬式野球部

[5月]

東京六大学準硬式野球春季リーグ戦にて連覇達成

### 陸上競技部

[6月]

第106回日本陸上競技選手権大会男子400mハードルで黒川和樹選手(現代福祉学部3年)が連覇達成

[7月]

黒川和樹選手が日本代表として第18回世界陸上競技選手権大会オレゴン2022に出場

[9月]

天皇賜杯第91回日本学生陸上競技対校選手権大会男子800mで松本純弥選手(経済学部4年)が優勝

### バドミントン部

[8月]

第10回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会で、小川翔悟選手(経済学部4年)・宮澤里選手(人間環境学部4年)のペアが優勝

[10月]

秩父宮・秩父宮妃杯争奪第73回全日本学生バドミントン選手権大会で、9年ぶり女子団体優勝



(写真提供: スポーツ法政新聞会)

### 弓道部

[8月]

第70回全日本学生弓道選手権大会で坪井友希選手(法学部4年)が男子個人部門優勝

### レスリング部

[7月]

2022年U20アジア選手権女子59kg級で中村成実選手(文学部2年)が優勝

[8月]

2022年U20世界選手権女子フリースタイル53kg級で木村彩夏選手(文学部1年)が3位



中村選手



木村選手 (写真提供: レスリング部)

### 剣道部

[7月]

第56回全日本女子学生剣道選手権大会で水川晴奈選手(キャリアデザイン学部2年)が15年ぶり大会史上5人目の連覇達成



廣瀬総長と水川選手

## 北京2022オリンピック競技大会における本学関係者の活躍

2022年2月4日より開催された北京2022オリンピック競技大会において、現役学生では岩淵麗奈選手(スポーツ健康学部3年)がスノーボード種目ビッグエア競技・スロープスタイル競技に出場し、それぞれ4位と5位に賞しました。さらにスケート部アイスホッケー部門の卒業生である鈴木世奈選手、床巫矢可選手、床楽留可選手(いずれもスポーツ健康学部卒)が選手として、スケート部フィギュア部門の現監督である竹内洋輔氏(文学部卒)が日本代表監督として出場しました。

2022年2月4日より開催された北京2022オリンピック競技大会において、現役学生では岩淵麗奈選手(スポーツ健康学部3年)がスノーボード種目ビッグエア競技・スロープスタイル競技に出場し、それぞれ4位と5位に賞しました。さらにスケート部アイスホッケー部門の卒業生である鈴木世奈選手、床巫矢可選手、床楽留可選手(いずれもスポーツ健康学部卒)が選手として、スケート部フィギュア部門の現監督である竹内洋輔氏(文学部卒)が日本代表監督として出場しました。